

(様式第 10)

番 7195 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 田村 憲久 殿

開設者名 国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 中釜 齊

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
氏 名	国立研究開発法人国立がん研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院

3 所在の場所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
電話 (03) 3542-2511 (代表)

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 ②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 4腎臓内科	
5神経内科 ⑥血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1呼吸器外科	2消化器外科
5血管外科	6心臓血管外科
3乳腺外科	7内分泌外科
4心臓外科	⑧小児外科
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	2小児科	3整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑬麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無	
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科	2矯正歯科	3口腔外科
診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	578床	578床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	356人	21.2人	377.2人	看護補助者	41.2人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	0人	4人	理学療法士	4人	臨床検査技師	87.4人
薬 剤 師	88人	1.9人	89.9人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助産師	0人	0人	0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	693人	11.3人	704.3人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	8人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	80.2人
歯科衛生士	4人	0.7人	4.7人	歯科技工士	1人	事務職員	190.1人
管理栄養士	8人	0人	8人	診療放射線技師	78.0人	その他の職員	85.4人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	42.8人	眼科専門医	1.1人
外科専門医	55.4人	耳鼻咽喉科専門医	8.0人
精神科専門医	5.0人	放射線科専門医	28.8人
小児科専門医	8.1人	脳神経外科専門医	8.0人
皮膚科専門医	5.0人	整形外科専門医	7.0人
泌尿器科専門医	6.0人	麻酔科専門医	11.0人
産婦人科専門医	14.0人	救急科専門医	0.0人
		合 計	200.2人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (島田 和明) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

平成26年7月から、診療科長としてリスクマネージャー業務を遂行し診療科内の医療安全管理業務に携わり、加えて、診療担当副院長として医療事故等防止対策委員会委員の業務経験がある。
 令和2年4月以降は、病院長として、医療事故等防止対策委員会委員長の業務に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	481.2 人	0 人	481.2 人
1日当たり平均外来患者数	1349 人	59 人	1408 人
1日当たり平均調剤数	875.6 剤		
必要医師数	128 人		
必要歯科医師数	2 人		
必要薬剤師数	17 人		
必要(准)看護師数	288 人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	216.7m ²	鉄骨構造	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	472.42m ²	病床数	39床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	55.46m ²			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	662.9m ²	鉄骨構造	多項目自動血球分析装置、血液凝固測定装置、全自動免疫化学分析測定装置、全自動化学発光測定装置、生化学用自動分析装置、全自動薬物濃度測定装置、尿自動分析装置			
細菌検査室	161.04m ²	鉄骨構造	同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、血液培養自動分析装置			
病理検査室	490.59m ²	鉄骨構造	自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片作製装置、自動封入装置、密閉式自動固定包埋装置、対面作業用下降流プッシュプル型換気装置			
病理解剖室	142.15m ²	鉄骨構造	ホルマリン作製装置			
研究室	38,936.15m ²	鉄骨鉄筋コンクリート等	研究所棟、疫病ヒトゲノムセンター棟、中央病院内がん対策情報センター部室			
講義室	887.03m ²	鉄骨構造	室数	4室	収容定員	50~300人
図書室	376.64m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	9万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	103.8%	逆紹介率	105.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数			8192人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			8660人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			364人
	D: 初診の患者の数			8243人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山本 修一	千葉大学大学院医学研究院 眼科学 教授 千葉大学医学部附属病院眼科科長 千葉大学医学部附属病院前病院長	○	特定機能病院の前管理者であり、医療に係る安全管理に関する識見を有する	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
川崎 志保理	順天堂大学医学部附属順天堂医院 医療安全推進部 部長補佐		特定機能病院の医療安全管理部門に所属し、医療に係る安全管理に関する識見を有する	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
田島 優子	さわやか法律事務所弁護士		弁護士として政府の諮問機関等医療問題に関わっており、医療に係る法律に関する識見を有する	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
眞島 喜幸	NPO法人パンキャンジャパン 理事長		患者団体の理事長であり医療を受ける者として医療関連学会等の構成員を務められ、医療に係る安全に関する識見を有する	有・ <input type="checkbox"/> 無	2
荒井 保明	国立がん研究センター 理事長特任補佐		当院の元管理者であり、医療に係る安全管理に関する識見を有する	<input type="checkbox"/> 有・無	1

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無		有・無
委員の選定理由の公表の有無		有・無
病院ホームページに掲載		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が1.5センチメートル以下のものに限る。)	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	3人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法(切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。))	1人
テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	4人
FOLFIRINOX 療法 胆道がん	1人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されたものに限る。)	2人
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	80人
プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	8人
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん	1人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	82人
メトロホルン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法(膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る))	0人
シクロホスファミド静脈内投与療法(成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る))	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 令和2年度は特になし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	筋萎縮性側索硬化症	1	56	好酸球性副鼻腔炎	1
2	パーキンソン病	28	57		
3	シャルコー・マリー・トゥース病	1	58		
4	重症筋無力症	11	59		
5	多発性硬化症／視神経脊髄炎	3	60		
6	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	3	61		
7	もやもや病	2	62		
8	進行性多巣性白質脳症	3	63		
9	神経線維腫症	6	64		
10	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	8	65		
11	結節性多発動脈炎	1	66		
12	悪性関節リウマチ	2	67		
13	バージャー病	3	68		
14	全身性エリテマトーデス	10	69		
15	皮膚筋炎／多発性筋炎	9	70		
16	全身性強皮症	2	71		
17	混合性結合組織病	2	72		
18	シェーグレン症候群	401	73		
19	ベーチェット病	8	74		
20	特発性拡張型心筋症	11	75		
21	肥大型心筋症	15	76		
22	再生不良性貧血	16	77		
23	自己免疫性溶血性貧血	55	78		
24	特発性血小板減少性紫斑病	65	79		
25	血栓性血小板減少性紫斑病	2	80		
26	IgA腎症	2	81		
27	後縦靭帯骨化症	5	82		
28	広範脊柱管狭窄症	1	83		
29	クッシング病	2	84		
30	甲状腺ホルモン不応症	1	85		
31	アジソン病	1	86		
32	サルコイドーシス	6	87		
33	特発性間質性肺炎	22	88		
34	肺動脈性肺高血圧症	1	89		
35	バッド・キアリ症候群	3	90		
36	特発性門脈圧亢進症	1	91		
37	原発性胆汁性胆管炎	1	92		
38	原発性硬化性胆管炎	1	93		
39	自己免疫性肝炎	8	94		
40	クローン病	4	95		
41	潰瘍性大腸炎	68	96		
42	非典型性溶血性尿毒症症候群	1	97		
43	遺伝性周期性四肢麻痺	1	98		
44	脊髄空洞症	3	99		
45	結節性硬化症	2	100		
46	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2	101		
47	マルファン症候群	1	102		
48	ウィルソン病	1	103		
49	急速進行性糸球体腎炎	1	104		
50	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	105		
51	オスラー病	1	106		
52	閉塞性細気管支炎	94	107		
53	副甲状腺機能低下症	69	108		
54	胆道閉鎖症	1	109		
55	IgG4関連疾患	2	110		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・入院時支援加算
・診療録管理体制加算1	・総合機能評価加算
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・認知症ケア加算1
・(25対1未)急性期看護補助体制加算	・特定集中治療室管理料1
・夜間100対1急性期看護補助体制加算	・早期離床・リハビリテーション加算
・夜間看護体制加算	・早期栄養介入管理加算
・看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)	・小児入院医療管理料3
・療養環境加算	・入院時食事療養費(I)
・重症者等療養環境特別加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・無菌治療室管理加算1	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・無菌治療室管理加算2	・歯科外来診療環境体制加算2
・緩和ケア診療加算	・
・がん拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算2イ	・
・入退院支援加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料イ	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料ロ	・内服・点滴誘発試験
・がん患者指導管理料ハ	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料ニ	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来緩和ケア管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・外来リハビリテーション診療料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・外来放射線照射診療料	・経気管支凍結生検法
・ニコチン依存症管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・療養・就労両立支援指導料 注2)相談体制充実加算	・画像診断管理加算1
・がん治療連携計画策定料1	・画像診断管理加算3
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層撮影
・外来がん患者在宅連携指導料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・外来排尿自立指導加算	・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・排尿自立支援	・CT撮影及びMRI撮影
・薬剤管理指導料	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・頭部MRI撮影加算
・療養・就労両立支援指導料 注3)に規定する相談支援加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・連携充実加算
・遺伝学的検査	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)
・国際標準検査管理加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん患者リハビリテーション料	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・リンパ浮腫複合的治療料	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19号に掲げる手術(子宮附属器腫瘍摘出術)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴うもの))	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・麻酔管理料(I)
・人工尿道括約筋植込・置換術	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・放射線治療専任加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・外来放射線治療加算
・輸血管理料 I	・高エネルギー放射線治療
・輸血適正使用加算	・1回線量増加加算
・コーディネート体制充実加算	・強度変調放射線治療(IMRT)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・体外照射呼吸性移動対策加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がん領域ClinicalInnovationNetwork事業による超希少がんの臨床開発と基盤整備を行う総合研究	米盛勸	乳腺・腫瘍内科	71,001,000	委 AMED
遺伝子パネル検査を超えるコンビネーション医療機器開発:ボーダーレス遺伝子検査	山本昇	先端医療科/呼吸器内科	39,000,000	委 AMED
血中マイクロRNAがんマーカーの検診コホートにおける性能検証研究	加藤健	頭頸部内科	31,590,000	委 AMED
FGFR遺伝子異常を有する進行・再発固形がんに対するFGFR阻害薬単剤療法の医師主導治験のプロトコール作成	須藤一起	乳腺・腫瘍内科	2,600,000	委 AMED
進行・再発子宮頸癌の予後向上を目指した集学的治療の開発	石川光也	婦人腫瘍科	3,250,000	委 AMED
局所進行食道癌に対する新しい術前治療を確立する研究	加藤健	頭頸部内科	9,305,000	委 AMED
切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタビン+シスプラチン+S-1(GCS)療法の第III相試験	奥坂拓志	肝胆膵内科	6,408,220	委 AMED
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	大江裕一郎	呼吸器内科	17,550,000	委 AMED
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	渡邊俊一	呼吸器外科	7,800,000	委 AMED
消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究	森實千種	肝胆膵内科	7,800,000	委 AMED
TCR多様性に基づく免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測に関する研究	吉田達哉	呼吸器内科	9,100,000	委 AMED
軟骨肉腫における変異型IDHを標的とした新規治療戦略の開発	中川亮	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	9,100,000	委 AMED
小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究	金光幸秀	大腸外科	19,360,000	委 AMED
8Kスーパーハイビジョン技術を用いた新しい遠隔手術支援型内視鏡(硬性鏡)手術システムの開発と高精細映像データの利活用に関する研究開発	金光幸秀	大腸外科	142,000,000	委 AMED
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	大幸宏幸	食道外科	17,520,000	委 AMED

腎機能低下時、軽体重時におけるオシメルチニブ療法の薬物動態、用量反応関係を検討する第1相試験	山本昇	先端医療科／呼吸器内科	17,550,000	委	AMED
進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第III相試験	吉川貴己	胃外科	17,430,000	委	AMED
高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツマブ+トラスツマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第III相試験	田村研治	乳腺・腫瘍内科	17,534,400	委	AMED
非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第III相試験	後藤悌	呼吸器内科	17,550,000	委	AMED
がん幹細胞を標的とした初発膠芽腫の放射線+テモノロミド+メトホルミン併用療法の第I・II相臨床試験	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	19,490,000	委	AMED
オピオイド不応の神経障害性疼痛に対するプレガバリンとデュロキセチンの国際共同ランダム化比較試験	松岡弘道	精神腫瘍科	19,500,000	委	AMED
StageIII治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験	高島淳生	消化管内科	18,980,000	委	AMED
ゲノム解析に基づいた造血細胞移植後2次固形がん最適個別化医療の実現	森泰昌	病理診断科	24,700,000	委	AMED
進行期固形がん患者における初回治療時のがん遺伝子プロファイリング検査の臨床的有用性を検討する臨床研究	吉田達哉	呼吸器内科	26,000,000	委	AMED
遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の標的治療に関する患者申出療養の実施体制構築	下井辰徳	乳腺・腫瘍内科	26,325,000	委	AMED
TERTを標的とした再発膠芽腫に対するエリブリンの医師主導治験	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	32,475,000	委	AMED
ゲノム医療時代における、がんの遺伝学的中間高リスク群の把握と評価手順の標準化をめざした多施設共同臨床疫学的研究	吉田輝彦	遺伝子診療部門	49,400,000	委	AMED
成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対策に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	39,793,000	委	AMED
産学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジストリを活用したHER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対する医師主導治験	森實千種	肝胆膵内科	40,000,000	委	AMED
難治急性リンパ性白血病に対するボルテゾミブ追加多剤併用療法の医師主導第II相治験	小川千登世	小児腫瘍科	50,479,000	委	AMED
小児・AYAがんに対する国内開発のEZH1/2阻害剤の臨床開発(医師主導治験)	小川千登世	小児腫瘍科	54,600,000	委	AMED
多施設共同遺伝性腫瘍「汎用プロトコール」の臨床疫学的データに基づく、ゲノム情報で規定される超高リスク群捕捉法の確立	吉田輝彦	遺伝子診療部門	999,960,000	委	AMED

遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の標的治療に関する患者申出療養	山本昇	先端医療科	571,857,000	補	厚労
がんゲノム医療に携わる医師等の育成に資する研究	大江裕一郎	-	1,800,000	補	厚労
進行がん患者に対する効果的かつ効率的な意思決定支援に向けた研究	内富庸介	支持療法開発部門	1,860,000	補	厚労
希少がんの情報提供・相談支援ネットワークの形成に関する研究	川井章	骨軟部腫瘍科・リハビリテーション科	4,200,000	補	厚労
骨髄バンクドナーの環境整備とコーディネートプロセスの効率化による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	9,067,000	補	厚労
遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の標的治療に関する患者申出療養	山本昇	先端医療科	7,000,000	補	厚労
ICH-GCP改正における国内ステークホルダーの参画のための研究	中村健一	臨床研究支援部門	7,207,000	補	厚労
がん患者の療養生活の最終段階における体系的な苦痛緩和法の構築に関する研究	里見絵理子	緩和医療科	10,000,000	補	厚労
がん患者に対する質の高いアピアランスケアの実装に関する研究	野澤桂子	アピアランス支援センター	12,000,000	補	厚労
可変型マルチチャンネルアプリケーションを用いた強度変調小線源治療法の開発	千葉貴仁	放射線品質管理室	1,170,000	補	文科研
不均質補正を用いた新たな小線源治療の臨床応用に向けた研究	稲葉浩二	放射線治療科	433,138	補	文科研
がん患者の難治性神経障害性疼痛へのエビデンスに基づく標準的薬物療法の開発	松岡弘道	精神腫瘍科	1,300,000	補	文科研
細胞周期監視機構を標的とした難治卵巣明細胞癌の新規治療法の開発	棚瀬康仁	婦人腫瘍科	1,040,000	補	文科研
IPMNに対する良悪性診断と術後再発リスク因子の提唱	脇岡範	肝胆膵内科	1,560,000	補	文科研
チェレンコフ光を用いたリアルタイム放射線治療精度評価システムの構築	岡本裕之	放射線治療科	260,000	補	文科研
動作計測と計算機シミュレーションに基づく大腿切断者のペダリング運動特性の解明	沖田祐介	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	390,000	補	文科研
ホウ素中性子捕捉療法における適正な治療効果予測法の確立	中村哲志	放射線品質管理室	650,000	補	文科研

がん医療に携わる心理職を養成するための教育・研修システムの構築	柳井優子	精神腫瘍科	650,000	補	文科研
がん関連症状へのケアに関する科学的根拠に基づいた実践の促進プログラムの開発	清水陽一	看護部	1,040,000	補	文科研
放射線療法に伴う味覚障害の唾液メタボローム解析による病態解明と治療への応用	八岡和歌子	歯科	780,000	補	文科研
AYA世代がん患者の早期症状緩和と心理社会的支援に関するスクリーニング法の開発	平山貴敏	精神腫瘍科	780,000	補	文科研
大腸前がん病変である鋸歯状病変の内視鏡診断学確立のための研究	山田真善	内視鏡科	780,000	補	文科研
がんゲノム医療と遺伝性腫瘍に対する患者・医療者の心理的ストレスに関する研究	田辺記子(安藤記子)	遺伝子診療部門	780,000	補	文科研
膵がん組織3次リンパ装置の形成・維持に関する研究	平岡伸介	病理診断科	910,000	補	文科研
ポリマーゲル線量計を用いた線量検証システムの開発	飯島康太郎	放射線品質管理室	910,000	補	文科研
毛様細胞性星細胞腫微小残存病変の検出と臨床応用	渡邊俊一	小児腫瘍科	910,000	補	文科研
ゲノム・エピゲノム・トランスクリプトーム解析による頭頸部癌の腫瘍内不均一性の解明	小林謙也	頭頸部外科	1,170,000	補	文科研
人工知能開発研究に資するマルチモーダルな医用画像データベース基盤構築	三宅基隆	放射線診断科	1,040,000	補	文科研
造血細胞移植後の晩期障害のバイオマーカーと病態解明	稲本賢弘	造血幹細胞移植科	1,170,000	補	文科研
TERTを標的とした悪性髄膜腫の新規治療法開発	高橋雅道	脳脊髄腫瘍科	1,170,000	補	文科研
肉腫の分化を標的とした新規治療開発	小林英介	骨軟部腫瘍科	1,300,000	補	文科研
悪性脳腫瘍におけるAPTイメージングの有用性の確立と臨床応用	大野誠	脊髄腫瘍科	1,300,000	補	文科研
がん免疫療法効果予測に資する病理学的指標の探索	元井紀子	病理診断科	1,300,000	補	文科研
分類不能非小円形細胞肉腫の遺伝子解析と新規疾患単位の探索	吉田朗彦	病理診断科	1,300,000	補	文科研

肺癌の新規バイオマーカーMSI-High・NTRKの臨床応用性に関する探索的検討	四倉正也	呼吸器外科	1,430,000	補	文科研
食道がん患者に対する運動療法と栄養療法の併用療法による新たな治療戦略の開発	福島卓矢	骨軟部・リハビリテーション科	1,430,000	補	文科研
微量検体プロテオゲノミクス解析による消化管原発神経内分泌癌の病態解明	平野秀和	消化管内科	1,430,000	補	文科研
中鎖脂肪酸誘導体による慢性骨髄性白血病の耐性克服機構の解明	篠原悠	造血器腫瘍研究分野	1,430,000	補	文科研
乳癌組織全エクソン解析データに基づく相同組み換え修復機能の新規測定モデル開発	谷岡真樹	乳腺・腫瘍内科	1,430,000	補	文科研
希少がんPatient-DerivedXenograftを用いた薬剤開発	小島勇貴	乳腺・腫瘍内科	1,430,000	補	文科研
フローサイトメトリーによる成熟リンパ系腫瘍の微小残存病変検出系の確立	松下弘道	病理・臨床検査科	1,430,000	補	文科研
血液中遺伝子変異情報に基づく相同組み換え欠損の新規モデル開発	渡辺智子	遺伝子診療部門	1,430,000	補	文科研
深層学習による患者生体データを用いた情動推定モデルの開発	後藤真一	支持療法開発部門	1,430,000	補	文科研
十二指腸癌発生過程の分子病理学的解析	関根茂樹	病理診断科	1,560,000	補	文科研
リンチ症候群疑い子宮内膜がん症例に対するスクリーニング手法の検討	石川光也	婦人腫瘍科	1,560,000	補	文科研
消化管がんの末梢循環腫瘍細胞を用いた精密医療	庄司広和	消化管内科	1,690,000	補	文科研
RSPO融合遺伝子陽性大腸癌の臨床病理学的特徴の解析	橋本大輝	病理診断科	1,690,000	補	文科研
ゲノムの詳細解析に基づく若年肺癌発生分子機序の解明	角南久仁子	臨床検査科	1,690,000	補	文科研
頭頸部がんのクロマチンアクセシビリティ解析による薬剤応答性新規細胞集団の特定	森泰昌	病理診断科	1,820,000	補	文科研
がん遺伝子パネル検査の心理社会的影響と関連する患者の期待と医師の態度に関する研究	内富庸介	支持療法開発部門	2,080,000	補	文科研
腫瘍分泌エクソソームを標的とした骨軟部肉腫における新規診断システムの開発	横尾賢	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,950,000	補	文科研

子宮体部類内膜癌Grade3に対する治療標的となる遺伝子異常の同定	加藤真弓	婦人腫瘍科	1,950,000	補	文科研
肺がん化学放射線治療後の免疫チェックポイント阻害薬の効果予測に関する研究	稲葉浩二	放射線治療科	1,950,000	補	文科研
ニボルマブによる免疫関連有害事象発現リスク予測システムの開発	宇田川智野	遺伝子診療部門	2,080,000	補	文科研
多層的遺伝子解析を用いた高悪性度軟部肉腫に対する個別化医療の開発	中谷文彦	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	3,250,000	補	文科研
希少かつ予後不良な子宮体癌の発生・進展機序の解明及び治療標的の同定	吉田裕	病理科	2,210,000	補	文科研
皮膚付属器腫瘍におけるSOX9の発現の検討と、その分子メカニズムの解析	西村優基	病理診断科	2,210,000	補	文科研
がん患者の最終段階を支える質問促進・意思決定モバイル介入:無作為化比較試験	内富庸介	支持療法開発部門	4,160,000	補	文科研
プロテオゲノミクスによる悪性骨軟部腫瘍の新たなバイオマーカーの探索とその応用	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	5,850,000	補	文科研
肺癌におけるKRAS変異機能の解析	谷田部恭	病理診断科	7,150,000	補	文科研
オンラインコミュニケーションツールを活用したAYA世代がんサバイバーのネットワークシステム『オンラインAYAひろば』の開発	平山貴敏	精神腫瘍科	300,000	補	財団
Financialtoxicity(経済的毒性)に着目したがんサバイバーの治療と生活の両立のための支援プログラムの開発	後藤真一	支持療法開発部門	500,000	補	財団
AYA世代の悪性骨腫瘍サバイバーにおけるスポーツ活動に関する調査研究	岩田慎太郎	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	500,000	補	財団
タキサン系抗がん剤を受けられる再発・進行がん患者を対象とした末梢神経障害セルフケア支援システムの開発	飯田郁実	看護部	500,000	補	財団
ヒト腫瘍組織におけるLATI発現とFBPAPETによるホウ素集積量の関連に関する研究	柏原大朗	放射線治療科	600,000	補	財団
進行がん患者と家族の食に関する苦悩の評価尺度の信頼性と妥当性の検討	天野晃滋	緩和医療科	550,000	補	財団
膵癌術前化学療法時の遠位胆管狭窄に対する内視鏡的経乳頭の胆管ドレナージにおける6 mm径Fully covered self-expandable metal stentの多施設共同第II相試験	原井正太	肝胆膵内科	500,000	補	財団
非乳頭部十二指腸神経内分泌腫瘍に対する内視鏡治療および外科手術の短期成績・長期予後に関する他施設共同適及的研究(D-NET試験)	野中哲	内視鏡科	1,000,000	補	財団

胃上皮性病変に対するプローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡の診断能に関する多施設前向き研究	高丸博之	内視鏡科	1,000,000	補	財団
体系的遺伝子発現および多型情報の統合解析により同定されたGALNT7を標的とした新規乳がん治療薬の開発	宇田川智野	遺伝子診療部門	987,265	補	財団

計102件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Narita Y, Nagane M, Mishima K、他	脳脊髄腫瘍科	Phase I/II study of tirabrutinib, a second-generation Bruton's tyrosine kinase inhibitor, in relapsed/refractory primary central nervous system lymphoma.	2021年23巻1	Original Article
2	Takahashi S, Takahashi M, Kinoshita M、他	脳脊髄腫瘍科	Fine-Tuning Approach for Segmentation of Gliomas in Brain Magnetic Resonance Images with a Machine Learning Method to Normalize Image Differences among Facilities.	2021年13巻6	Original Article
3	Yamazawa E, Ohno M, Satomi K、他	脳脊髄腫瘍科	First case of human neurocoenurosis caused by Taenia serialis: A case report.	2020年92巻	Original Article
4	Ohno M, Miyakita Y, Takahashi M、他	脳脊髄腫瘍科	Clinical Characteristics and Outcome of Patients with Radiation-Induced Glioma.	2020年22巻	Original Article
5	Miyakita Y, Ohno M, Takahashi M、他	脳脊髄腫瘍科	Usefulness of carbon-11-labeled methionine positron-emission tomography for assessing the treatment response of primary central nervous system lymphoma.	2020年50巻5	Original Article
6	Kobayashi K, Matsumoto F, Miyakita Y、他	頭頸部外科	Risk Factors for Delayed Surgical Recovery and Massive Bleeding in Skull Base Surgery.	2020年5巻2	Original Article
7	Matsumoto F, Kobayashi K, Omura G、他	頭頸部外科	Pull-through resection without free-flap reconstruction for lateral wall oropharyngeal cancer.	2020年50巻9	Original Article
8	Kobayashi K, Yoshimoto S, Ando M、他	頭頸部外科	Full-coverage TP53 deep sequencing of recurrent head and neck squamous cell carcinoma facilitates prognostic assessment after recurrence.	2021年113巻	Original Article
9	Ito A, Kobayashi K, Shiotsuka M、他	頭頸部外科	Uniform infection screening allowed safe head and neck surgery during the coronavirus disease 2019 pandemic in Japan.	2021年51巻3	Original Article

10	Murata T, Watase C, Shiino S、他	乳腺外科	Development and Validation of a Preoperative Scoring System to Distinguish Between Nonadvanced and Advanced Axillary Lymph Node Metastasis in Patients With Early-stage Breast Cancer.	2020年	Original Article
11	Kawachi A, Yamashita S, Okochi-Takada E、他	乳腺・腫瘍内科	BRCA1 promoter methylation in breast cancer patients is associated with response to olaparib/eribulin combination therapy.	2020年181巻2	Original Article
12	Kitadai R, Shimoi T, Sudo K、他	乳腺・腫瘍内科	Efficacy of second-line treatment and prognostic factors in patients with advanced malignant peritoneal mesothelioma: a retrospective study.	2021年21巻1	Original Article
13	Mizuno T, Kojima Y, Yonemori K、他	乳腺・腫瘍内科	HER3 protein expression as a risk factor for post-operative recurrence in patients with early-stage adenocarcinoma and adenosquamous carcinoma of the cervix.	2020年20巻4	Original Article
14	Mizuno T, Kojima Y, Yonemori K、他	乳腺・腫瘍内科	Neoadjuvant chemotherapy promotes the expression of HER3 in patients with ovarian cancer.	2020年20巻6	Original Article
15	Shimoi T, Nagai SE, Yoshinami T、他	乳腺・腫瘍内科	The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2018 edition.	2020年27巻3	Original Article
16	Shimoi T, Sagara Y, Hara F、他	乳腺・腫瘍内科	First-line endocrine therapy for postmenopausal patients with hormone receptor-positive, HER2-negative metastatic breast cancer: a systematic review and meta-analysis.	2020年27巻3	Original Article
17	Watanuki R, Shimomura A, Yazaki S、他	乳腺・腫瘍内科	Survival outcomes in patients with human epidermal growth factor receptor 2 positive metastatic breast cancer administered a therapy following trastuzumab emtansine treatment.	2020年99巻38	Original Article
18	Yoshida H, Nishikawa T, Matsumoto K、他	乳腺・腫瘍内科	Histopathological features of HER2 overexpression in uterine carcinosarcoma: proposal for requirements in HER2 testing for targeted therapy.	2021年478巻6	Original Article
19	Yotsukura M, Okubo Y, Yoshida Y、他	呼吸器外科	Indocyanine green imaging for pulmonary segmentectomy.	2021年	Original Article
20	Yotsukura M, Okubo Y, Yoshida Y、他	呼吸器外科	Fissureless trans-pericardial left upper lobectomy of the lung: a technique to avoid pneumonectomy.	2021年69巻4	Original Article

21	Uchida S, Yoshida Y, Yotsukura M、他	呼吸器外科	Correction to: Factors Associated with Unexpected Readmission Following Lung Resection.	2021年45卷5	Original Article
22	Nakagawa K, Yoshida Y, Yotsukura M、他	呼吸器外科	Pattern of recurrence of pN2 non-small-cell lung cancer: should postoperative radiotherapy be reconsidered?	2021年59卷1	Original Article
23	Yotsukura M, Nakagawa K, Suzuki K、他	呼吸器外科	Recent advances and future perspectives in adjuvant and neoadjuvant immunotherapies for lung cancer.	2021年51卷1	Original Article
24	Nakagawa K	呼吸器外科	Reply to Ding et al.	2021年59卷4	Original Article
25	Watanabe SI	呼吸器外科	How we should tailor the nodal staging for various types of lung cancer?	2020年12卷7	Original Article
26	Yoshida Y, Yotsukura M, Nakagawa K、他	呼吸器外科	Surgical Results in Pathological N1 Nonsmall Cell Lung Cancer.	2020年	Original Article
27	Yotsukura M, Asamura H, Suzuki S、他	呼吸器外科	Prognostic impact of cancer-associated active fibroblasts and invasive architectural patterns on early-stage lung adenocarcinoma.	2020年145卷	Original Article
28	Kobayashi AK, Horinouchi H, Nakayama Y、他	呼吸器外科	Salvage surgery after chemotherapy and/or radiotherapy including SBRT and proton therapy: A consecutive analysis of 38 patients.	2020年145卷	Original Article
29	Yotsukura M, Asamura H, Suzuki S、他	呼吸器外科	Histological and prognostic data on surgically resected early-stage lung adenocarcinoma.	2020年31卷	Original Article
30	Shirasawa M, Yoshida T, Horinouchi H、他	呼吸器内科	Prognostic impact of peripheral blood neutrophil to lymphocyte ratio in advanced-stage pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma and its association with the immune-related tumour microenvironment.	2021年124卷5	Original Article
31	Shirasawa M, Yoshida T, Takayanagi D、他	呼吸器内科	Activity and Immune Correlates of Programmed Death-1 Blockade Therapy in Patients With Advanced Large Cell Neuroendocrine Carcinoma.	2021年	Original Article

32	Shirasawa M, Yoshida T, Matsumoto Y、他	呼吸器内科	Impact of chemoradiotherapy on the immune-related tumour microenvironment and efficacy of anti-PD-(L)1 therapy for recurrences after chemoradiotherapy in patients with unresectable locally advanced non-small cell lung cancer.	2020年140卷	Original Article
33	Takeyasu Y, Yoshida T, Shibaki R、他	呼吸器内科	Differential Efficacy of Pembrolizumab According to Metastatic Sites in Patients With PD-L1 Strongly Positive (TPS \geq 50%) NSCLC.	2021年22卷2	Original Article
34	Baba K, Yoshida T, Shitsuka M、他	呼吸器内科	Rapid development of pulmonary Mycobacterium avium infection during chemoradiotherapy followed by durvalumab treatment in a locally advanced NSCLC patient.	2021年153卷	Original Article
35	Masuda K, Horinouchi H, Tanaka M、他	呼吸器内科	Efficacy of anti-PD-1 antibodies in NSCLC patients with an EGFR mutation and high PD-L1 expression.	2021年147卷1	Original Article
36	Inaba-Higashiyama R, Yoshida T, Jo H、他	呼吸器内科	Clinical outcomes of pembrolizumab therapy in advanced-NSCLC patients with poor performance status (\geq 3) and high PD-L1 expression (TPS \geq 50%): A case series.	2020年11卷12	Original Article
37	Arakawa S, Yoshida T, Shirasawa M、他	呼吸器内科	RB1 loss induced small cell lung cancer transformation as acquired resistance to pembrolizumab in an advanced NSCLC patient.	2021年151卷	Original Article
38	Takahashi T, Umeguchi H, Tateishi A、他	呼吸器内科	Disease flare of leptomeningeal metastases without radiological and cytological findings after the discontinuation of osimertinib.	2021年151卷	Original Article
39	Okuma Y, Ko R, Shukuya T、他	呼吸器内科	Prognostic factors for patients with metastatic or recurrent thymic carcinoma receiving palliative-intent chemotherapy.	2020年148卷	Original Article
40	Okuma Y, Goto Y, Ohyanagi F、他	呼吸器内科	Phase II trial of S-1 treatment as palliative-intent chemotherapy for previously treated advanced thymic carcinoma.	2020年9卷20	Original Article
41	Goto Y	呼吸器内科	Current Understanding and Biomarker Application of Programmed Death-Ligand 1 Expression in Tumors.	2020年15卷9	Original Article
42	Horinouchi H, Atagi S, Oizumi S、他	呼吸器内科	Real-world outcomes of chemoradiotherapy for unresectable Stage III non-small cell lung cancer: The SOLUTION study.	2020年9卷18	Original Article

43	Arakawa S, Yoshida T, Nakayama Y、他	呼吸器内科	Small Cell Cancer Transformation of Lung Adenocarcinoma During Durvalumab Treatment After Chemoradiotherapy.	2020年15巻8	Original Article
44	Ohe Y, Kato T, Sakai F、他	呼吸器内科	Real-world use of osimertinib for epidermal growth factor receptor T790M-positive non-small cell lung cancer in Japan.	2020年50巻8	Original Article
45	Goto Y, Yamamoto N, Masters ET、他	呼吸器内科	Treatment Sequencing in Patients with Anaplastic Lymphoma Kinase-Positive Non-Small Cell Lung Cancer in Japan: A Real-World Observational Study.	2020年37巻7	Original Article
46	Kanda S, Ohe Y, Goto Y、他	呼吸器内科	Five-year safety and efficacy data from a phase Ib study of nivolumab and chemotherapy in advanced non-small-cell lung cancer.	2020年111巻6	Original Article
47	Ito M, Kanda S, Yoshida T、他	呼吸器内科	Eltrombopag olamine for refractory immune-related thrombocytopenia induced by pembrolizumab in a non-small cell lung cancer patient.	2020年146巻	Original Article
48	Horinouchi H, Ohe Y	呼吸器内科	History of Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Lung Cancer Study Group.	2020年50巻5	Original Article
49	Okuno T, Arakawa S, Yoshida T、他	呼吸器内科	Efficacy of osimertinib in a patient with leptomeningeal metastasis and EGFR uncommon S768I mutation.	2020年143巻	Original Article
50	Horinouchi H	呼吸器内科	To combine or not to combine: anti-vascular endothelial growth factor therapies in EGFR mutation positive non-small cell lung cancer.	2020年8巻8	Original Article
51	Yoshida T, Ichikawa J, Giuroiu I、他	呼吸器内科	C reactive protein impairs adaptive immunity in immune cells of patients with melanoma.	2020年8巻1	Original Article
52	Mizuno T, Horinouchi H, Watanabe S、他	呼吸器内科	Number of metastatic organs negatively affects the treatment sequence in patients with EGFR-TKI failure.	2020年11巻4	Original Article
53	Sakaki A, Kanamori J, Ishiyama K、他	食道外科	Distribution of lymph node metastases in locally advanced adenocarcinomas of the esophagogastric junction (cT2-4): comparison between Siewert type I and selected Siewert type II tumors.	2020年405巻4	Original Article

54	Okada N, Fujita T, Kanamori J、他	食道外科	Efficacy of prewarming prophylaxis method for intraoperative hypothermia during thoracoscopic esophagectomy.	2020年17卷4	Original Article
55	Kurita D, Oguma J, Ishiyama K、他	食道外科	Handgrip Strength Predicts Postoperative Pneumonia After Thoracoscopic-Laparoscopic Esophagectomy for Patients with Esophageal Cancer.	2020年27卷9	Original Article
56	Hirano Y, Fujita T, Sato K、他	食道外科	Totally Mechanical Collard Technique for Cervical Esophagogastric Anastomosis Reduces Stricture Formation Compared with Circular Stapled Anastomosis.	2020年44卷12	Original Article
57	Ishiyama K, Fujita T, Fujiwara H、他	食道外科	Does staged surgical training for minimally invasive esophagectomy have an impact on short-term outcomes?	2020年	Original Article
58	Daiko H, Oguma J, Fujiwara H、他	食道外科	Novel universally applicable technique for performing bilateral transcervical mediastinoscopic-assisted transhiatal laparoscopic esophagectomy: a truly minimally invasive procedure.	2020年	Original Article
59	Daiko H, Fujita T, Oguma J、他	食道外科	Novel minimally invasive approach to lymph node dissection around the left renal vein in patients with esophagogastric junction cancer.	2021年18卷2	Original Article
60	Daiko H, Oguma J, Fujiwara H、他	食道外科	Robotic esophagectomy with total mediastinal lymphadenectomy using four robotic arms alone in esophageal and esophagogastric cancer (RETML-4): a prospective feasibility study.	2021年18卷2	Original Article
61	Yamagata Y, Yoshikawa T, Ishizu K、他	胃外科	Is lymph node dissection for neuroendocrine carcinoma of the stomach effective as it is for adenocarcinoma?	2020年	Original Article
62	Hayashi M, Yoshikawa T, Yura M、他	胃外科	Intraoperative blood loss as an independent prognostic factor for curative resection after neoadjuvant chemotherapy for gastric cancer: a single-center retrospective cohort study.	2021年51卷2	Original Article
63	Hayashi M, Yoshikawa T, Yura M、他	胃外科	Predictive value of the surgical Apgar score on postoperative complications in advanced gastric cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy followed by radical gastrectomy: a single-center retrospective study.	2020年20卷1	Original Article
64	Hayashi T, Yoshikawa T, Kamiya A、他	胃外科	Is splenectomy for dissecting splenic hilar lymph nodes justified for scirrhous gastric cancer?	2020年23卷5	Original Article

65	Wada T, Yoshikawa T, Kamiya A、他	胃外科	A nodal diagnosis by computed tomography is unreliable for patients who need additional gastrectomy after endoscopic submucosal dissection.	2020年50巻9	Original Article
66	Hayashi T, Yoshikawa T, Sakamaki K、他	胃外科	Primary results of a randomized two-by-two factorial phase II trial comparing neoadjuvant chemotherapy with two and four courses of cisplatin/S-1 and docetaxel/cisplatin/S-1 as neoadjuvant chemotherapy for advanced gastric cancer.	2020年4巻5	Original Article
67	Yamagata Y, Saito K, Hirano K、他	胃外科	Long-term outcomes and safety of radical transmediastinal esophagectomy with preoperative docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil combination chemotherapy for locally advanced squamous cell carcinoma of the thoracic esophagus.	2020年18巻1	Original Article
68	Tsukamoto S, Fujita S, Ota M、他	大腸外科	Long-term follow-up of the randomized trial of mesorectal excision with or without lateral lymph node dissection in rectal cancer (JCOG0212).	2020年107巻5	Original Article
69	Shida D, Inoue M, Tanabe T、他	大腸外科	Prognostic impact of primary tumor location in Stage III colorectal cancer—right-sided colon versus left-sided colon versus rectum: a nationwide multicenter retrospective study.	2020年55巻10	Original Article
70	Takamizawa Y, Shida D, Boku N、他	大腸外科	Nutritional and inflammatory measures predict survival of patients with stage IV colorectal cancer.	2020年20巻1	Original Article
71	Kanemitsu Y, Shida D, Tsukamoto S、他	大腸外科	Japanese Evidences on Nerve-Preserving Lateral Pelvic Lymph Node Dissection for Rectal Cancer: Major Historical Milestones and Clinical Impact: The Past, Present and Future.	2020年33巻6	Original Article
72	Mazaki J, Tsukamoto S, Miyake M、他	大腸外科	Circumferential Resection Margin Status as a Predictive Factor for Recurrence in Preoperative MRI for Advanced Lower Rectal Cancer Without Preoperative Therapy.	2021年64巻1	Original Article
73	Yasui K, Shida D, Nakamura Y、他	大腸外科	Postoperative, but not preoperative, inflammation-based prognostic markers are prognostic factors in stage III colorectal cancer patients.	2021年124巻5	Original Article
74	Horie T, Shida D, Ahiko Y、他	大腸外科	Laparoscopic versus Open Colectomy for Elderly Patients with Colon Cancer: A Propensity Score Analysis with the Controlling Nutritional Status (CONUT) Score.	2021年73巻2	Original Article
75	Nagata Y, Kato K, Miyamoto T、他	消化管内科	Safety and efficacy of cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy (CART) in gastrointestinal cancer patients with massive ascites treated with systemic chemotherapy.	2020年28巻12	Original Article

76	Aoki M, Shoji H, Kashiro A、他	消化管内科	Prospects for Comprehensive Analyses of Circulating Tumor Cells in Tumor Biology.	2020年12卷5	Original Article
77	Nakatani Y, Kato K, Shoji H、他	消化管内科	Comparison of involved field radiotherapy and elective nodal irradiation in combination with concurrent chemotherapy for T1bN0M0 esophageal cancer.	2020年25卷6	Original Article
78	Nakajima TE, Yamaguchi K, Boku N、他	消化管内科	Randomized phase II/III study of 5-fluorouracil/1-leucovorin versus 5-fluorouracil/1-leucovorin plus paclitaxel administered to patients with severe peritoneal metastases of gastric cancer (JCOG1108/WJOG7312G).	2020年23卷4	Original Article
79	Iwasa S, Okita N, Kuchiba A、他	消化管内科	Phase II study of lenvatinib for metastatic colorectal cancer refractory to standard chemotherapy: the LEMON study (NCCH1503).	2020年5卷4	Original Article
80	Cho H, Yamada M, Sekine S、他	内視鏡科	Gastric cancer is highly prevalent in Lynch syndrome patients with atrophic gastritis.	2021年24卷2	Original Article
81	Takamaru H, Yoshinaga S, Takisawa H、他	内視鏡科	Endoscopic Ultrasonography Miniature Probe Performance for Depth Diagnosis of Early Gastric Cancer with Suspected Submucosal Invasion.	2020年14卷5	Original Article
82	Ego M, Yamada M, Saito Y	内視鏡科	MLH1-positive sessile serrated lesion and an adenocarcinoma that is hiding the submucosal invasion.	2020年50卷7	Original Article
83	Abe S, Saito Y, Tanaka Y、他	内視鏡科	A novel endoscopic hand-suturing technique for defect closure after colorectal endoscopic submucosal dissection: a pilot study.	2020年52卷9	Original Article
84	Sakamoto T, Takamaru H, Sekiguchi M、他	内視鏡科	Reliability of Japan Narrow-Band Imaging Expert Team Classification for the Diagnosis of Colorectal Neoplasms: A Pilot Study.	2020年101卷5	Original Article
85	Miyamoto Y, Nonaka S, Oda I、他	内視鏡科	Safety and usefulness of endoscopic submucosal dissection for early esophageal cancers in elderly patients aged 80 years or older.	2021年18卷1	Original Article
86	Okamura T, Hashimoto T, Naka T、他	内視鏡科	Clinicopathologic and Molecular Characteristics of Familial Adenomatous Polyposis-associated Traditional Serrated Adenoma.	2020年44卷9	Original Article

87	Cho H, Budhathoki S, Kanehara R、他	内視鏡科	Association between dietary sugar intake and colorectal adenoma among cancer screening examinees in Japan.	2020年111卷10	Original Article
88	Sekiguchi M, Kakugawa Y, Nakamura K、他	内視鏡科	Family history of colorectal cancer and prevalence of advanced colorectal neoplasia in asymptomatic screened populations in different age groups.	2020年91卷6	Original Article
89	Sekiguchi M, Kakugawa Y, Matsumoto M、他	内視鏡科	Prevalence of serrated lesions, risk factors, and their association with synchronous advanced colorectal neoplasia in asymptomatic screened individuals.	2020年35卷11	Original Article
90	Sekiguchi M, Igarashi A, Sakamoto T、他	内視鏡科	Cost-effectiveness analysis of colorectal cancer screening using colonoscopy, fecal immunochemical test, and risk score.	2020年35卷9	Original Article
91	Ichijima R, Abe S, Kobayashi S、他	内視鏡科	Efficacy of Full-Spectrum Endoscopy to Visualize the Major Duodenal Papilla in Patients with Familial Adenomatous Polyposis.	2020年101卷5	Original Article
92	Inoki K, Sakamoto T, Takamaru H、他	内視鏡科	The Diagnostic Performance for Colorectal Neoplasms Using Magnified Endoscopy Differs between Experts and Novice Endoscopists: A Post Hoc Analysis.	2020年101卷5	Original Article
93	Oda I, Shimizu Y, Yoshio T、他	内視鏡科	Long-term outcome of endoscopic resection for intramucosal esophageal squamous cell cancer: a secondary analysis of the Japan Esophageal Cohort study.	2020年52卷11	Original Article
94	Ban D, Nara S, Takamoto T、他	肝胆膵外科	Revisiting the role of the hepatic vein in laparoscopic liver resection.	2021年7卷13	Original Article
95	Maruki Y, Hijioka S, Wu SYS、他	肝胆膵内科	Novel endoscopic technique for trisegment drainage in patients with unresectable hilar malignant biliary strictures (with video).	2020年92卷3	Original Article
96	Koga T, Hijioka S, Ishikawa Y、他	肝胆膵内科	Duckbill-type antireflux self-expandable metal stent placement for post-choledochojejunostomy reflux cholangitis.	2021年53卷5	Original Article
97	Koga T, Hijioka S, Hisada Y、他	肝胆膵内科	Endoscopic ultrasound-guided choledochooduodenostomy without fistula dilation using a novel fully covered metallic stent with a 5.9-Fr ultra-thin delivery system.	2021年53卷6	Original Article

98	Maruki Y, Morizane C, Arai Y、他	肝胆膵内科	Molecular detection and clinicopathological characteristics of advanced/recurrent biliary tract carcinomas harboring the FGFR2 rearrangements: a prospective observational study (PRELUDE Study).	2021年56巻3	Original Article
99	Kato MK, Yunokawa M, Bun S、他	婦人腫瘍科	Treatment strategies for recurrent ovarian cancer in older adult patients in Japan: a study based on real-world data.	2020年146巻5	Original Article
100	Kato MK, Shida D, Yoneoka Y、他	婦人腫瘍科	Novel classification of ovarian metastases originating from colorectal cancer by radiological imaging and macroscopic appearance.	2020年25巻9	Original Article
101	Tanase Y, Yoshida H, Naka T、他	婦人腫瘍科	Clear Cell Carcinoma of the Cervix With OHVIRA Syndrome: A Rare Case Report.	2021年12巻1	Original Article
102	Yoneoka Y, Kato MK, Tanase Y、他	婦人腫瘍科	The baseline recurrence risk of patients with intermediate-risk cervical cancer.	2021年64巻2	Original Article
103	Kato MK, Yoshida H, Uehara T、他	婦人腫瘍科	Unique prognostic features of grade 3 endometrioid endometrial carcinoma: Findings from 101 consecutive cases at a Japanese tertiary cancer center.	2021年60巻2	Original Article
104	Kato MK, Tanase Y, Uno M、他	婦人腫瘍科	Brain Metastases from Uterine Cervical and Endometrial Cancer.	2021年13巻3	Original Article
105	Uehara T, Yoshida H, Kato T	婦人腫瘍科	Pelvic seromucinous borderline tumor 26 years after ovarian seromucinous borderline tumor managed with post-treatment estrogen replacement therapy.	2021年35巻	Original Article
106	Kato MK, Muro S, Kato T、他	婦人腫瘍科	Spatial distribution of smooth muscle tissue in the female pelvic floor and surrounding the urethra and vagina.	2020年95巻4	Original Article
107	Uehara T, Yoshida H, Fukuhara M、他	婦人腫瘍科	Efficacy of ascitic fluid cell block for diagnosing primary ovarian, peritoneal, and tubal cancer in patients with peritoneal carcinomatosis with ascites.	2020年157巻2	Original Article
108	Kawai A, Yamamoto Y, Yoshioka Y	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Vaccine effect of recombinant single-chain hemagglutinin protein as an antigen.	2020年6巻6	Original Article

計100件

109	Kawai A, Higashi T, Shibata T、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Rare cancers in Japan: definition, clinical features and future perspectives.	2020年50巻9	Original Article
110	Kim Y, Kobayashi E, Suehara Y、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Immunological status of peripheral blood is associated with prognosis in patients with bone and soft-tissue sarcoma.	2021年21巻3	Original Article
111	Toki S, Sone M, Yoshida A、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Image-guided core needle biopsy for musculoskeletal lesions.	2021年	Original Article
112	Iwata S, Kawai A, Ueda T、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Symptomatic Venous Thromboembolism in Patients with Malignant Bone and Soft Tissue Tumors: A Prospective Multicenter Cohort Study.	2021年28巻7	Original Article
113	Iwata S	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	ASO Author Reflections: Venous Thromboembolism in a Patient with Musculoskeletal Tumor: Fact or Fiction?	2021年28巻7	Original Article
114	Ogura K, Boland PJ, Fabbri N、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Rate and risk factors for wound complications after internal hemipelvectomy.	2020年102-B巻3	Original Article
115	Ogura K, Uehara K, Akiyama T、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Minimal clinically important differences in Toronto Extremity Salvage Score for patients with lower extremity sarcoma.	2020年25巻2	Original Article
116	Ogura K, Somwar R, Hmeljak J、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Therapeutic Potential of NTRK3 Inhibition in Desmoplastic Small Round Cell Tumor.	2021年27巻4	Original Article
117	Ogura K, Yakoub MA, Christ AB、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	The critical difference in the DASH (Disabilities of the Arm, Shoulder, and Hand) outcome measure after essential upper extremity tumor surgery.	2021年	Original Article
118	Ogura K, Bartelstein MK, Yakoub MA、他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Minimal clinically important differences in SF-36 global score: Current value in orthopedic oncology.	2020年	Original Article
119	Ogura K, Fujiwara T, Healey JH	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Patients with increased time to treatment initiation have poorer survival after definitive surgery for localized high-grade soft tissue sarcoma in the extremity and trunk: Report from the National Cancer Database (NCDB).	2021年103-B巻6	Original Article

120	Jinnai S, Yamazaki N, Hirano Y、他	皮膚腫瘍科	The Development of a Skin Cancer Classification System for Pigmented Skin Lesions Using Deep Learning.	2020年10巻8	Original Article
121	Nakano E, Takahashi A, Namikawa K、他	皮膚腫瘍科	Correlation between cutaneous adverse events and prognosis in patients with melanoma treated with nivolumab: A single institutional retrospective study.	2020年47巻6	Original Article
122	Tsutsui K, Takahashi A, Muto Y、他	皮膚腫瘍科	Outcomes of lymph node dissection in the treatment of extramammary Paget's disease: A single-institution study.	2020年47巻5	Original Article
123	Takahashi A, Namikawa K, Ogata D、他	皮膚腫瘍科	Real-world efficacy and safety data of nivolumab and ipilimumab combination therapy in Japanese patients with advanced melanoma.	2020年47巻11	Original Article
124	Namikawa K, Kiyohara Y, Takenouchi T、他	皮膚腫瘍科	Final analysis of a phase II study of nivolumab in combination with ipilimumab for unresectable chemotherapy-naïve advanced melanoma.	2020年47巻11	Original Article
125	Yamazaki N, Kiyohara Y, Uhara H、他	皮膚腫瘍科	Real-world safety and efficacy data of ipilimumab in Japanese radically unresectable malignant melanoma patients: A postmarketing surveillance.	2020年47巻8	Original Article
126	Ogata D, Haydu LE, Glitza IC、他	皮膚腫瘍科	The efficacy of anti-programmed cell death protein 1 therapy among patients with metastatic acral and metastatic mucosal melanoma.	2021年10巻7	Original Article
127	Tsutsui K, Kikuchi K, Nozawa K、他	皮膚腫瘍科	Efficacy and safety of topical benzoyl peroxide for prolonged acneiform eruptions induced by cetuximab and panitumumab: A multicenter, phase II trial.	2021年	Original Article
128	Nakama K, Ogata D, Nakano E、他	皮膚腫瘍科	Clinical response to a MEK inhibitor in a patient with metastatic melanoma harboring an RAF1 gene rearrangement detected by cancer gene panel testing.	2021年48巻6	Original Article
129	Muto Y, Ryo E, Namikawa K、他	皮膚腫瘍科	RB1 gene mutations are a distinct predictive factor in Merkel cell carcinoma.	2021年71巻5	Original Article
130	Hosoba R, Makita S, Shiotsuka M、他	血液腫瘍科	COVID-19 pneumonia in a patient with adult T-cell leukemia-lymphoma.	2020年60巻4	Original Article

131	Izutsu K, Ando K, Ennishi D、他	血液腫瘍科	Safety and antitumor activity of acalabrutinib for relapsed/refractory B-cell malignancies: A Japanese phase I study.	2021年112巻6	Original Article
132	Yamauchi N, Maruyama D, Choi I、他	血液腫瘍科	Prophylactic antiviral therapy for hepatitis B virus surface antigen-positive patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab-containing chemotherapy.	2021年112巻5	Original Article
133	Izutsu K, Kato K, Kiyoi H、他	血液腫瘍科	Phase I study of duvelisib in Japanese patients with relapsed or refractory lymphoma.	2020年112巻4	Original Article
134	Ida H, Maruyama D, Maeshima AM、他	血液腫瘍科	Duodenal nodular lymphoid hyperplasia in a patient with IgA deficiency.	2020年8巻12	Original Article
135	Maruyama D, Iida S, Ogawa G、他	血液腫瘍科	Randomised phase II study to optimise melphalan, prednisolone, and bortezomib in untreated multiple myeloma (JCOG1105).	2021年192巻3	Original Article
136	Izutsu K, Yamamoto K, Kato K、他	血液腫瘍科	Phase 1/2 study of venetoclax, a BCL-2 inhibitor, in Japanese patients with relapsed or refractory chronic lymphocytic leukemia and small lymphocytic lymphoma.	2021年113巻3	Original Article
137	Makita S, Maruyama D, Maeshima AM、他	血液腫瘍科	A comparison of clinical staging using the Lugano versus Ann Arbor classifications in Japanese patients with Hodgkin lymphoma.	2020年16巻3	Original Article
138	Maruyama D, Terui Y, Yamamoto K、他	血液腫瘍科	Final results of a phase II study of nivolumab in Japanese patients with relapsed or refractory classical Hodgkin lymphoma.	2020年50巻11	Original Article
139	Shichijo T, Maruyama D, Yamauchi N、他	血液腫瘍科	Transformation Scoring System (TSS): A new assessment index for clinical transformation of follicular lymphoma.	2020年9巻23	Original Article
140	Izutsu K, Ogura M, Tobinai K、他	血液腫瘍科	Safety profile of brentuximab vedotin in Japanese patients with relapsed/refractory Hodgkin lymphoma or systemic anaplastic large cell lymphoma: a post-marketing surveillance study.	2021年113巻3	Original Article
141	Izutsu K, Ogura M, Tobinai K、他	血液腫瘍科	Correction to: Safety profile of brentuximab vedotin in Japanese patients with relapsed/refractory Hodgkin lymphoma or systemic anaplastic large cell lymphoma: a post-marketing surveillance study.	2021年113巻4	Original Article

142	Izutsu K, Kinoshita T, Takizawa J、他	血液腫瘍科	A phase II Japanese trial of fludarabine, cyclophosphamide and rituximab for previously untreated chronic lymphocytic leukemia.	2021年51巻3	Original Article
143	Munakata W, Shirasugi Y, Tobinai K、他	血液腫瘍科	Phase 1 study of tazemetostat in Japanese patients with relapsed or refractory B-cell lymphoma.	2021年112巻3	Original Article
144	Nozaki K, Maruyama D, Maeshima AM、他	血液腫瘍科	The role of local radiotherapy following rituximab-containing chemotherapy in patients with transformed indolent B-cell lymphoma.	2021年106巻2	Original Article
145	Ito A, Kim SW, Matsuoka KI、他	造血幹細胞移植科	Safety and efficacy of anti-programmed cell death-1 monoclonal antibodies before and after allogeneic hematopoietic cell transplantation for relapsed or refractory Hodgkin lymphoma: a multicenter retrospective study.	2020年112巻5	Original Article
146	Kurosawa S, Yamaguchi H, Yamaguchi T、他	造血幹細胞移植科	The prognostic impact of FLT3-ITD, NPM1 and CEBPa in cytogenetically intermediate-risk AML after first relapse.	2020年112巻2	Original Article
147	Kuno M, Ito A, Maeshima AM、他	造血幹細胞移植科	T-cell posttransplant lymphoproliferative disorders after allogeneic hematopoietic cell transplantation.	2020年112巻2	Original Article
148	Onishi A, Inamoto Y, Tajima K、他	造血幹細胞移植科	Detrimental effects of pretransplant cisplatin-based chemotherapy on renal function after allogeneic hematopoietic cell transplantation for lymphoma.	2020年55巻11	Original Article
149	Kurosawa S, Mori A, Tsukagoshi M、他	造血幹細胞移植科	Current Status and Needs of Long-Term Follow-Up Clinics for Hematopoietic Cell Transplantation Survivors: Results of a Nationwide Survey in Japan.	2020年26巻5	Original Article
150	Inamoto Y, Martin PJ, Lee SJ、他	造血幹細胞移植科	Dickkopf-related protein 3 is a novel biomarker for chronic GVHD after allogeneic hematopoietic cell transplantation.	2020年4巻11	Original Article
151	Arakawa A, Ichikawa H, Kubo T、他	小児腫瘍科	Vaginal Transmission of Cancer from Mothers with Cervical Cancer to Infants.	2021年384巻1	Original Article
152	Kumamoto T, Goto H, Ogawa C、他	小児腫瘍科	FLEND (nelarabine, fludarabine, and etoposide) for relapsed T-cell acute lymphoblastic leukemia in children: a report from Japan Children's Cancer Group.	2020年112巻5	Original Article

153	Nakano Y, Watanabe Y, Honda-Kitahara M、他	小兒腫瘍科	Utility of a bridged nucleic acid clamp for liquid biopsy: Detecting BRAF V600E in the cerebrospinal fluid of a patient with brain tumor.	2020年67巻10	Original Article
154	Shoji M, Inaba K, Itami J、他	総合内科	Advantages and challenges for noninvasive atrial fibrillation ablation.	2020年	Original Article
155	Amano K, Hatano Y, Matsuda Y、他	緩和医療科	C-reactive protein , delirium , and other psychological symptoms among patients with advanced cancer.	2020年5巻2	Original Article
156	Amano K, Maeda I, Ishiki H、他	緩和医療科	Significance of fluid retention, body mass index, and weight loss in patients with advanced cancer.	2020年5巻3	Original Article
157	Amano K, Maeda I, Ishiki H、他	緩和医療科	Effects of enteral nutrition and parenteral nutrition on survival in patients with advanced cancer cachexia: Analysis of a multicenter prospective cohort study.	2021年40巻3	Original Article
158	Ishiki H, Hamano J, Nagaoka H、他	緩和医療科	Prevalence of Extrapyrarnidal Symptoms in Cancer Patients Referred to Palliative Care: A Multicenter Observational Study (JORTC PAL12).	2021年38巻7	Original Article
159	Amano K, Morita T, Miyashita M	緩和医療科	Potential Measurement Properties of a Questionnaire for Eating-Related Distress Among Advanced Cancer Patients With Cachexia: Preliminary Findings of Reliability and Validity Analysis.	2020年	Original Article
160	Amano K, Maeda I, Morita T、他	緩和医療科	Beliefs and Perceptions About Parenteral Nutrition and Hydration by Family Members of Patients With Advanced Cancer Admitted to Palliative Care Units: A Nationwide Survey of Bereaved Family Members in Japan.	2020年60巻2	Original Article
161	Amano K, Liu D, Bruera E、他	緩和医療科	Collapse of Fluid Balance and Association with Survival in Patients with Advanced Cancer Admitted to a Palliative Care Unit: Preliminary Findings.	2020年23巻4	Original Article
162	Matsuoka H, Iwase S, Miyaji T、他	精神腫瘍科	Predictors of duloxetine response in patients with neuropathic cancer pain: a secondary analysis of a randomized controlled trial-JORTC-PAL08 (DIRECT) study.	2020年28巻6	Original Article
163	Ogawa Y, Kishita N, Laidlaw K、他	精神腫瘍科	Cognitive Behavioural Therapy competence of Japanese trainees: a comparison with UK trainees.	2020年46巻3	Original Article

164	Matsuoka H, Morita T, Oyamada S、他	精神腫瘍科	Between-group difference in mean values or changes in pain intensity? Evaluating the distribution of change from baseline in a neuropathic cancer pain clinical trial.	2020年9巻6	Original Article
165	Onishi Y, Ito K, Motoi N、他	放射線診断科	Ciliated muconodular papillary tumor of the lung: 18F-FDG PET/CT findings of 15 cases.	2020年34巻6	Original Article
166	Onishi Y, Kusumoto M, Motoi N、他	放射線診断科	Ciliated Muconodular Papillary Tumor of the Lung: Thin-Section CT Findings of 16 Cases.	2020年214巻4	Original Article
167	Onishi Y, Kusumoto M, Goto Y、他	放射線診断科	Epithelioid hemangioendothelioma of the lung: CT findings and clinical course of 35 cases.	2020年50巻10	Original Article
168	Sugawara S, Sone M, Morita S、他	放射線診断科	Radiologic Assessment for Endoscopic US-guided Biliary Drainage.	2020年40巻3	Original Article
169	Kubo Y, Ito K, Sone M、他	放射線診断科	Diagnostic Value of Model-Based Iterative Reconstruction Combined with a Metal Artifact Reduction Algorithm during CT of the Oral Cavity.	2020年41巻11	Original Article
170	Uchiyama N, Matsuda N, Tsugane S、他	放射線診断科	Diagnostic impacts of DBT and ABVS for breast cancer screening in comparison with MMG and HUS.	2020年	Original Article
171	Onishi Y, Yoshioka T, Arai Y、他	放射線診断科	Randomized Controlled Study to Compare Uncovered Stent Versus Covered Stent as Percutaneous Endoprosthesis for Malignant Biliary Obstruction (JIVROSG-0207).	2020年43巻11	Original Article
172	Kashihara T, Nakayama Y, Ito K、他	放射線治療科	Usefulness of Simple Original Interstitial Lung Abnormality Scores for Predicting Radiation Pneumonitis Requiring Steroidal Treatment After Definitive Radiation Therapy for Patients With Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer.	2021年6巻1	Original Article
173	Tsuchida K, Inaba K, Kashihara T、他	放射線治療科	Clinical outcomes of definitive whole pelvic radiotherapy for clinical lymph node metastatic prostate cancer.	2020年9巻18	Original Article
174	Murakami N, Nakamura S, Kashihara T、他	放射線治療科	Hyaluronic acid gel injection in rectovaginal septum reduced incidence of rectal bleeding in brachytherapy for gynecological malignancies.	2020年19巻2	Original Article

175	Igaki H, Nakamura S, Kurihara H、他	放射線治療科	Comparison of (18)FBPA uptake with (18)FDG uptake in cancer patients.	2020年157巻	Original Article
176	Murakami N, Mori T, Kubo Y、他	放射線治療科	Prognostic impact of immunohistopathologic features in definitive radiation therapy for nasopharyngeal cancer patients.	2020年61巻1	Original Article
177	Bei Y, Murakami N, Nakayama Y、他	放射線治療科	Stereotactic body radiation therapy for early-stage non-small-cell lung cancer in octogenarians and older: an alternative treatment.	2020年61巻4	Original Article
178	Murakami N, Cheng G, Yoshimoto S、他	放射線治療科	Image-guided interstitial brachytherapy boost for nasopharyngeal carcinoma: technical aspects.	2020年12巻3	Original Article
179	Murakami N, Mori T, Machida R、他	放射線治療科	Prognostic Value of Epithelial Cell Adhesion Molecules in T1-2N0M0 Glottic Cancer.	2021年131巻7	Original Article
180	Okamoto H, Kito S, Tohyama N、他	放射線治療科	Radiation protection in radiological imaging: a survey of imaging modalities used in Japanese institutions for verifying applicator placements in high-dose-rate brachytherapy.	2021年62巻1	Original Article
181	Iijima K, Murakami N, Nakamura S、他	放射線治療科	Configuration analysis of the injection position and shape of the gel spacer in gynecologic brachytherapy.	2021年20巻1	Original Article
182	Iijima K, Murakami N, Okamoto H、他	放射線治療科	A dosimetric and centeredness comparison of the conventional and novel endobronchial applicators: A preliminary study.	2021年20巻2	Original Article
183	Kashihara T, Nakamura S, Murakami N、他	放射線治療科	Initial Experience of Intentional Internal High-Dose Policy Volumetric Modulated Arc Therapy of Neck Lymph Node Metastases ≥ 2 cm in Patients With Head and Neck Squamous Cell Carcinoma.	2021年11巻	Original Article
184	Sato J, Satouchi M, Itoh S、他	先端医療科	Lenvatinib in patients with advanced or metastatic thymic carcinoma (REMORA): a multicentre, phase 2 trial.	2020年21巻6	Original Article
185	Sato J, Kitano S, Motoi N、他	先端医療科	CD20+ tumor-infiltrating immune cells and CD204+ M2 macrophages are associated with prognosis in thymic carcinoma.	2020年111巻6	Original Article

186	Ebata T, Shimizu T, Fujiwara Y、他	先端医療科	Phase I study of the indoleamine 2,3-dioxygenase 1 inhibitor navoximod (GDC-0919) as monotherapy and in combination with the PD-L1 inhibitor atezolizumab in Japanese patients with advanced solid tumours.	2020年38巻2	Original Article
187	Fujiwara Y, Kenmotsu H, Yamamoto N、他	先端医療科	Phase 1 study of telisotuzumab vedotin in Japanese patients with advanced solid tumors.	2021年10巻7	Original Article
188	Fujiwara Y, Kuchiba A, Koyama T、他	先端医療科	Infection risk with PI3K-AKT-mTOR pathway inhibitors and immune checkpoint inhibitors in patients with advanced solid tumours in phase I clinical trials.	2020年5巻2	Original Article
189	Kitano S, Shimizu T, Koyama T、他	先端医療科	Dose exploration results from Phase 1 study of cemiplimab, a human monoclonal programmed death (PD)-1 antibody, in Japanese patients with advanced malignancies.	2021年87巻1	Original Article
190	Kondo S, Shimizu T, Koyama T、他	先端医療科	First-in-human study of the cancer peptide vaccine TAS0313 in patients with advanced solid tumors.	2021年112巻4	Original Article
191	Kondo S, Tajimi M, Funai T、他	先端医療科	Phase 1 dose-escalation study of a novel oral PI3K/mTOR dual inhibitor, LY3023414, in patients with cancer.	2020年38巻6	Original Article
192	Koyama T, Shimizu T, Iwasa S、他	先端医療科	First-in-human phase I study of E7090, a novel selective fibroblast growth factor receptor inhibitor, in patients with advanced solid tumors.	2020年111巻2	Original Article
193	Shimizu T, Kim DW, Loong HH、他	先端医療科	Overcoming the impact of the COVID-19 pandemic on oncology early phase trials and drug development in Asia-Experiences and perspectives of the Asian Oncology Early Phase 1 Consortium.	2021年	Original Article
194	Shimizu T, Nishio K, Sakai K、他	先端医療科	Phase I safety and pharmacokinetic study of YM155, a potent selective survivin inhibitor, in combination with erlotinib in patients with EGFR TKI refractory advanced non-small cell lung cancer.	2020年86巻2	Original Article
195	Yamamoto N, Ryou BY, Keam B、他	先端医療科	A phase 1 study of oral ASP5878, a selective small-molecule inhibitor of fibroblast growth factor receptors 1-4, as a single dose and multiple doses in patients with solid malignancies.	2020年38巻2	Original Article
196	Yamamoto N, Shimizu T, Yonemori K、他	先端医療科	A first-in-human, phase 1 study of the NEDD8 activating enzyme E1 inhibitor TAS4464 in patients with advanced solid tumors.	2021年	Original Article

197	Iwata S, Takata M, Morozumi M、他	感染制御室	Drastic reduction in pneumococcal meningitis in children owing to the introduction of pneumococcal conjugate vaccines: Longitudinal analysis from 2002 to 2016 in Japan.	2021年27巻4	Original Article
198	Watanabe R, Okano S, Yamazaki N	アピアランス支援センター	Fixed drug eruption dramatically exacerbated during treatment with programmed death 1 inhibitor.	2020年47巻12	Original Article
199	Tsutsui K, Namikawa K, Mori T、他	アピアランス支援センター	Case of acquired reactive perforating collagenosis induced by panitumumab for colon cancer.	2021年48巻2	Original Article
200	Tanaka K, Yamamoto R	医療情報部	Implementation of a Secured Cross-Institutional Data Collection Infrastructure by Applying HL7 FHIR on an Existing Distributed EMR Storages.	2020年272巻	Original Article
201	Hibino H, Makino Y, Sakiyama N、他	薬剤部	Exacerbation of atrioventricular block associated with concomitant use of amlodipine and aprepitant in a lung cancer patient: A case report.	2021年59巻4	Original Article
202	Hashimoto H, Iwasa S, Yanai-Takahashi T、他	薬剤部	Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Phase II Study on the Efficacy and Safety of Vitamin K1 Ointment for Cetuximab or Panitumumab-Induced Acneiform Eruptions-VIKTORIA Study.	2020年47巻6	Original Article
203	Nakashima T, Inamoto Y, Ito A、他	薬剤部	Nausea and vomiting during post-transplantation cyclophosphamide administration.	2020年112巻4	Original Article
204	Miyazaki Y, Tabata N, Kubo Y、他	放射技術部	Utility of Tissue Classification in Invasive Ductal Carcinoma using Dynamic Magnetic Resonance Imaging of the Mammary Gland.	2021年11巻	Original Article
205	Hata T, Nakamura K, Yonemori K、他	臨床研究支援部門	Regulatory and operational challenges in conducting Asian International Academic Trial for expanding the indications of cancer drugs.	2021年14巻3	Original Article
206	Shimoyama R, Nakagawa K, Ishikura S、他	臨床研究支援部門	A multi-institutional randomized phase III trial comparing postoperative radiotherapy to observation after adjuvant chemotherapy in patients with pathological N2 Stage III non-small cell lung cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1916 (J-PORT study).	2021年51巻6	Original Article
207	Tanaka K, Tsutani Y, Wakabayashi M、他	臨床研究支援部門	Sublobar resection versus lobectomy for patients with resectable stage I non-small cell lung cancer with idiopathic pulmonary fibrosis: a phase III study evaluating survival (JCOG1708, SURPRISE).	2020年50巻9	Original Article

208	Shimoyama R, Tsutani Y, Wakabayashi M、他	臨床研究支援部門	A multi-institutional randomized phase III trial comparing anatomical segmentectomy and wedge resection for clinical stage IA non-small cell lung cancer in high-risk operable patients: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1909 (ANSWER study).	2020年50巻10	Original Article
209	Shimoyama R, Omori S, Nomura S、他	臨床研究支援部門	A multi-institutional randomized phase III study comparing weekly carboplatin plus nab-paclitaxel and daily low-dose carboplatin as regimens for concurrent chemoradiotherapy in elderly patients with unresectable locally advanced non-small cell lung cancer: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1914.	2021年51巻5	Original Article
210	Nomura S, Goto Y, Mizutani T、他	臨床研究支援部門	A randomized phase III study comparing continuation and discontinuation of PD-1 pathway inhibitors for patients with advanced non-small-cell lung cancer (JCOG1701, SAVE study).	2020年50巻7	Original Article
211	Sato Y, Yamada T, Yoshikawa T、他	臨床研究支援部門	Randomized controlled Phase III trial to evaluate omentum preserving gastrectomy for patients with advanced gastric cancer (JCOG1711, ROAD-GC).	2020年50巻11	Original Article
212	Sato Y, Mizusawa J, Katayama H、他	臨床研究支援部門	Diagnosis of invasion depth in resectable advanced gastric cancer for neoadjuvant chemotherapy: An exploratory analysis of Japan clinical oncology group study: JCOG1302A.	2020年46巻6	Original Article
213	Kadota T, Ikematsu H, Sasaki T、他	臨床研究支援部門	Protocol for a single-arm confirmatory trial of adjuvant chemoradiation for patients with high-risk rectal submucosal invasive cancer after local resection: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1612 (RESCUE study).	2020年10巻7	Original Article
214	Kadota T, Tsukada Y, Ito M、他	臨床研究支援部門	A phase III randomized controlled trial comparing surgery plus adjuvant chemotherapy with preoperative chemoradiotherapy followed by surgery plus adjuvant chemotherapy for locally recurrent rectal cancer: Japan Clinical Oncology Group study JCOG1801 (RC-SURVIVE study).	2020年50巻8	Original Article
215	Miyamoto K, Wakabayashi M, Mizusawa J、他	臨床研究支援部門	Evaluation of the representativeness and generalizability of Japanese clinical trials for localized rectal/colon cancer: Comparing participants in the Japan Clinical Oncology Group study with patients in Japanese registries.	2020年46巻9	Original Article
216	Shimoyama R, Hijioka S, Mizuno N、他	臨床研究支援部門	Study protocol for a multi-institutional randomized phase III study comparing combined everolimus plus lanreotide therapy and everolimus monotherapy in patients with unresectable or recurrent gastroenteropancreatic neuroendocrine tumors; Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1901 (STARTER-NET study).	2020年20巻6	Original Article
217	Tanaka K, Ogawa G, Mizusawa J、他	臨床研究支援部門	Second primary cancers and recurrence in patients after resection of colorectal cancer: An integrated analysis of trials by Japan Clinical Oncology Group: JCOG1702A.	2021年51巻2	Original Article
218	Miyamoto K, Watanabe T, Wakabayashi M、他	臨床研究支援部門	Comparison of the International Workshop Criteria and the Response Evaluation Criteria in Solid Tumors for indolent B-cell lymphoma.	2021年26巻2	Original Article

219	Katayama H, Mizusawa J, Fukuda H、他	臨床研究支援部門	Prognostic impact of geriatric assessment in elderly patients with non-small cell lung cancer: an integrated analysis of two randomized phase III trials (JCOG1115-A).	2021年51巻5	Original Article
220	Sato Y, Kurokawa Y, Doki Y、他	臨床研究支援部門	A Phase II study of preoperative chemotherapy with docetaxel, oxaliplatin and S-1 in gastric cancer with extensive lymph node metastasis (JCOG1704).	2020年16巻4	Original Article
221	Watanabe T, Honda T, Totsuka H、他	遺伝子診療部門	Simple prediction model for homologous recombination deficiency in breast cancers in adolescents and young adults.	2020年182巻2	Original Article
222	Zenda S, Ryu A, Takashima A、他	支持療法開発部門	Hydrocolloid dressing as a prophylactic use for hand-foot skin reaction induced by multitargeted kinase inhibitors: protocol of a phase 3 randomised self-controlled study.	2020年10巻10	Original Article
223	Sunami K, Naito Y, Aimono E、他	臨床検査部	The initial assessment of expert panel performance in core hospitals for cancer genomic medicine in Japan.	2021年26巻3	Original Article
224	Watanabe S, Shimomura A, Kubo T、他	病理診断科	BRAF V600E mutation is a potential therapeutic target for a small subset of synovial sarcoma.	2020年33巻9	Original Article
225	Sekine S, Yamashita S, Yamada M、他	病理診断科	Clinicopathological and molecular correlations in traditional serrated adenoma.	2020年55巻4	Original Article
226	Hiraoka N, Nitta H, Ohba A、他	病理診断科	Details of human epidermal growth factor receptor 2 status in 454 cases of biliary tract cancer.	2020年105巻	Original Article
227	Yoshida H, Tanaka H, Tsukada T、他	病理診断科	Gross mucinous multinodular appearance aids in the identification of ovarian metastases in low-grade appendiceal mucinous neoplasms during intraoperative consultation.	2021年50巻	Original Article
228	Yoshida H, Tanaka H, Tsukada T、他	病理診断科	Diagnostic Discordance in Intraoperative Frozen Section Diagnosis of Ovarian Tumors: A Literature Review and Analysis of 871 Cases Treated at a Japanese Cancer Center.	2021年29巻1	Original Article
229	Kojima N, Kuno I, Ushigusa T、他	病理診断科	Chemotherapy-associated foam cell aggregates as a prognostic factor in patients with pelvic high-grade serous carcinoma receiving neo-adjuvant chemotherapy.	2020年477巻3	Original Article

230	Kashima J, Yoshida M, Jimbo K、他	病理診断科	ALK-positive Histiocytosis of the Breast: A Clinicopathologic Study Highlighting Spindle Cell Histology.	2021年45巻3	Original Article
231	Maeshima AM, Taniguchi H, Fujino T、他	病理診断科	Immunohistochemical CD20-negative change in B-cell non-Hodgkin lymphomas after rituximab-containing therapy.	2020年99巻9	Original Article
232	Maeshima AM, Taniguchi H, Ida H、他	病理診断科	Non-diffuse large B-cell lymphoma transformation from follicular lymphoma: a single-institution study of 19 cases.	2020年102巻	Original Article
233	Hiraoka N, Ino Y, Hori S、他	病理診断科	Expression of classical human leukocyte antigen class I antigens, HLA-E and HLA-G, is adversely prognostic in pancreatic cancer patients.	2020年111巻8	Original Article
234	Motoi N, Yatabe Y	病理診断科	Lung cancer biomarker tests: the history and perspective in Japan.	2020年9巻3	Original Article
235	Ogura M, Kiyuna T, Yoshida H	病理診断科	Impact of blurs on machine-learning aided digital pathology image analysis.	2020年1巻1	Original Article
236	Yatabe Y, Yoshiki Y, Matsumura K、他	病理診断科	Real-World Evidence of Diagnostic Testing for Driver Oncogene Mutations in Lung Cancer in Japan.	2021年2巻3	Original Article
237	Yonemaru J, Hashimoto T, Takayanagi D、他	病理診断科	NTRK fusion-positive colorectal cancer in Japanese population.	2021年71巻5	Original Article
238	Yoshida KI, Machado I, Motoi T、他	病理診断科	NKX3-1 Is a Useful Immunohistochemical Marker of EWSR1-NFATC2 Sarcoma and Mesenchymal Chondrosarcoma.	2020年44巻6	Original Article
239	Okuma HS, Yonemori K, Narita SN、他	国際開発部門	MASTER KEY Project: Powering Clinical Development for Rare Cancers Through a Platform Trial.	2020年108巻3	Original Article
240	Nakamura K, Shibata T	国際開発部門	Regulatory changes after the enforcement of the new Clinical Trials Act in Japan.	2020年50巻4	Original Article

計240件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 ＜研究倫理審査委員会標準業務手順書＞ ・ 委員会の運用規定 ・ 審査種別ごとの手順 など ＜対象指針＞ ・ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 ・ ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 臨床研究を含む当センターの研究に携わる者のCOI管理手順は、COI管理規程及びCOI委員会運営規程において定められている。 1. 管理対象	

管理対象については、COI管理規程第3条に定められており、臨床研究を行おうとする研究者が該当する。

2. 申告

研究者は、COI管理規程第4条により、年一回の定期申告及びCOI状況の変動の都度申告を行う。

3. COI委員会

COI委員会は、COI管理規程第6条により、研究者より申告のあったCOIにつき、審査を行い、理事長に対し、意見等を述べるとともに、研究倫理審査委員会等各種倫理審査委員会委員長からの研究者のCOIの申告内容、審査結果等の開示請求があれば、これに応じることとされ、さらにCOI委員会運営規程第5条に基づき、COI委員会委員長は、研究倫理審査委員会委員長等より依頼された審査の結果については、依頼元である研究倫理審査委員会委員長等に報告することとより具体的に定められている。

4. 指導・管理

理事長は、COI委員会の意見に基づき、COIに関し、改善が必要と判断する場合、当該研究者に対し、当該研究への参加の取りやめまでも含む改善に向けた指導・管理を行う。

5. 臨床研究法対応

COI管理規定第5条により、臨床研究法施行規則第21条第2項（いわゆる「事実確認」）に関する事務権限を理事長から生命倫理部COI管理室に委譲している。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 1 回（合議）
※書面審査件数：
医学系指針対象研究216件
（2331名）、医師主導治験
137件（2502名）

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 4 回

・研修の主な内容

研究倫理と被験者保護、各種倫理指針、利益相反、研究許可申請等の手続きに関する講義

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

がん専門修練医・・・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す医師を対象とし、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践する。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度である。

レジデント（3年コース・2年コース）・・・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み（旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み）で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者を対象に複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指す。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事する。日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度である。2年コースについては研修開始時期が選択可能です。

レジデント短期コース・・・がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応することを目的とした研修制度である。研修時期は4月、7月、10月、1月から選択可能であり、研修期間は最短で6ヶ月、最長で1年6ヶ月までである。

専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）・・・新専門医制度のもと、当センターでの研修を希望される専門医の取得を目指す者を対象としたコースである。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	147.61 人
-------------	----------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
成田 善孝	脳神経外科	科長	29 年	
鈴木 茂伸	眼科	眼腫瘍科科長	27 年	
吉本 世一	耳鼻いんこう科	科長	29 年	
加藤 健	頭頸部内科	科長	26 年	R2. 4. 1～
赤澤 聡	形成外科	科長	19 年	
首藤 昭彦	乳腺外科	科長	36 年	
米盛 勸	乳腺・腫瘍内科	科長	22 年	R2. 7. 1～
渡邊 俊一	呼吸器外科	科長	30 年	
大江 裕一郎	呼吸器内科	科長	36 年	
斎藤 豊	内視鏡科	科長	28 年	
大幸 宏幸	食道外科	科長	27 年	
吉川 貴己	胃外科	科長	33 年	

金光 幸秀	大腸外科	科長	30 年	
加藤 健	消化管内科	科長	26 年	R3. 7. 1～
江崎 稔	肝胆膵外科	科長	27 年	R2. 6. 1～
奥坂 拓志	肝胆膵内科	科長	30 年	
松井 喜之	泌尿器科	科長	25 年	R2. 8. 1～
加藤 友康	婦人科	医長	37 年	
川井 章	整形外科	科長	34 年	
山崎 直也	皮膚科	科長	35 年	
伊豆津 宏二	血液腫瘍科	科長	27 年	
福田 隆浩	造血幹細胞移植科	科長	31 年	
小川 千登世	小児科	科長	30 年	
米田 光宏	小児腫瘍外科	科長	35 年	R2. 8. 1～
佐藤 哲文	麻酔科	科長	31 年	
里見 絵理子	緩和医療科	科長	26 年	
松岡 弘道	精神科	科長	19 年	R2. 4. 1～
楠本 昌彦	放射線診断科	科長	35 年	R3. 4. 1～
井垣 浩	放射線治療科	科長	26 年	R3. 4. 1～
谷田部 恭	病理科	科長	30 年	R1. 7. 1～
山本 昇	先端医療科	科長	29 年	
福田 治彦	データ管理部	部長	33 年	
上野 尚雄	歯科	医長	23 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・薬剤師レジデント研修

研修内容：がん薬物療法に関連する病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師を養成することを目的としている。研修期間は3年で、指導薬剤師のもとに薬剤業務や病棟業務に従事する。

研修期間：3年間

参加人数：18名（2021年3月31日現在の在籍者数）

・がん専門薬剤師研修

研修内容：国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、またはこれに相当する学識を有し、3年以上の臨床経験を有する者を対象とし、がん患者の薬学的管理介入や臨床薬学研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門薬剤師を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導薬剤師のもとで高度な知識・技術の習得・開発に努め、患者の臨床薬剤業務に従事する。

研修期間：2年間

参加人数：0名（2021年3月31日現在の在籍者数）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

- ・任意研修制度・受託実習制度と言う研修制度があり、他の医療機関に所属する医療関係者の受け入れを行っている。対象者は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士等であり、医学生や看護学生等の受け入れも行っている。

・研修の期間・実施回数

- ・研修期間・・・1日から1年間と幅広く設定し、延長（最長で1年）も可能である。

延長の更新回数については、制限を設けていない。

・研修の参加人数

- ・2020年度で新たに受け入れた医療従事者は110名である。その他、学生等の受け入れを376名行った。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

XIV-1. 研究活動・研修参加状況（2020年度）

1. 看護部の教育実施状況

1) 院内教育委員会

(1) 目的

看護部の理念に基づいた看護師の育成を目指し、専門職としての自律的な学習を支援すると共に、がん看護の専門性の追求、がん看護の質の向上を目指した国内外の情報の収集と発信、および院外からの研修受講者の学習の機会を提供する

(2) 目標

- 各レベルの到達目標達成に向けて、集合教育と分散教育を統合し、日々の看護実践に役立つ研修を実施する
- がん看護専門教育の内容の充実と専門的な知識・技術の向上を図る
- 院内外に向けて、がん看護に関する情報を発信し、学習の機会を提供する

(3) 内容

研修名	目標	対象者	人員	実施日	時間数
基礎看護技術研修	【目的】新人看護師が、「習得すべき基礎看護技術」を、看護基礎教育を土台に臨床実践の場で安全に実施できるための知識・技術を身に付ける【目標】1) 各看護技術の手順を理解できる2) 各看護技術を手順の通り実施できる3) 各看護技術を安全に実施するための根拠を理解できる4) 各看護技術を集合教育と職場内教育を連動させ、段階的に習得する方法を学ぶ	レベルⅠ（新人）	63	4/21 4/28 5/12 5/19 6/2 7/7	3
1か月の振り返り	【目的】現在の自己の状況を客観的に捉え、課題を明確にできる【目標】1) 1か月を振り返り、現在困っていること・悩みを表現できる2) グループメンバーの意見に共感することができる3) 現在の自分の課題について指導者と話し合うことができる	レベルⅠ（新人）	65	5/12	3
コミュニケーション	【目的】自分と患者・家族、またはスタッフとの円滑なコミュニケーションのための課題を明確にし、解決策を見出す【目標】1) コミュニケーションの基本的技術を知る2) 看護を実践するうえで、情報共有（報告・連絡・相談）が重要であることを理解する3) 演習とグループワークを通し、自分のコミュニケーションについて考える4) 日々の看護実践において円滑なコミュニケーションのための自己の課題を明確にし、解決に向けた対策を考える4) 日々の看護実践において円滑なコミュニケーションのための自己の課題を明確にし、解決策を見出す	レベルⅠ（新人）	34 31	6/02 6/02	3
多重課題	【目的】安全・安楽な看護実践のために、多重課題を整理し、優先度を考えることができる【目標】1) 実施すべき業務を適切に把握する2) 自分が業務に要する時間を把握する3) 業務に要する時間を考慮し、タイムスケジュールを立てる4) 必要に応じて先輩に報告・連絡し、協力を依頼する5) 助言を受けながら、患者の経過と病棟業務の流れを考慮した優先順位を考える	レベルⅠ（新人）	28 34	7/07 7/07	3
フィジカルアセスメント①	【目的】患者の病態を正確に捉え、適切なアセスメントに基づいた看護実践するための基礎知識・技術を習得する【目標】1) フィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する2) 今起きている現象についてアセスメントするための情報を収集する3) フィジカルアセスメントの基礎知識をもとに、起きている現象について正常か異常か判断する4) 助言を受けながら、症状や各種データから患者の病態を考える5) 緊急コールが必要な状態か判断し、先輩看護師に報告する	レベルⅠ（新人）	31 29	10/06 10/06	3
がんの基礎知識	【目的】がんの疫学、予防、早期発見、病態生理に関する気を知識と、国のがん対策について理解できる【目標】1) がん罹患や死亡、生存率などの統計データの意味と見方が理解できる2) がんの予防および早期発見の重要性を述べることができる3) がんの病理学的特徴、発がんのメカニズム、再発、転移などの特徴について知る4) 国のがん対策について知る	レベルⅠ（新人）	39 27	12/08 12/14	3
看護過程の展開	【目的】根拠に基づいた適切な看護実践プロセスを展開できる【目標】1) 看護過程の5つの段階（アセスメント、診断、計画、介入、評価）についてそれぞれ説明できる2) 最善のケアを提供するために看護過程が重要であることを理解できる3) 看護実践において看護過程を展開する	レベルⅠ（新人）	29 30	12/01 12/01	4

がん治療と看護①	<p>【目的】 がん治療の特徴・副作用・合併症対策に関する基礎知識を習得し、実践に活用する【目標】 1.手術療法 1) 手術療法の基礎知識を習得する ・手術療法の特徴 ・手術療法に伴う合併症と合併症予防 ・手術後の回復を促進するための援助 ・手術療法に伴う心身の苦痛 2) 手術療法における看護ケアについて理解できる 2.薬物療法 1) 薬物療法の基礎知識を習得する ・薬物療法の特徴 ・抗がん薬の作用メカニズム ・薬物療法の評価 ・抗がん薬の安全な取り扱いと確実な投与管理 ・薬物療法の副作用や合併症と看護ケア 2) 薬物療法における看護ケアについて理解できる 3.放射線療法 1) 放射線療法の基礎知識を習得する ・放射線及び放射線療法の特徴 ・放射線療法の治療計画と評価 ・放射線療法の有害事象とそれに伴う心身の苦痛 ・放射線療法が確実かつ安全に実施されるための留意事項 2) 放射線療法における看護ケアについて理解できる</p>	レベルⅠ（新人）	41 28	1/08 1/13	3
1年の振り返り	<p>【目的】 1年を振り返り、2年目に向けての自己の課題を明確にする【目標】 1) この1年で学んだ内容を総括し、シミュレーションで実践することができる 2) 1年を振り返り、自分たちの成長や看護への思いを語る 3) 互いの評価・課題の発表を聞き、共有できる 4) 次年度に向けての自己の課題を明確にできる</p>	レベルⅠ（新人）	28 25	3/09 3/09	4
末梢静脈内注射実施認定②	<p>【目的】 末梢静脈内注射を安全に実施するために必要な知識・技術を習得し、実施できる【目標】 1) 末梢静脈内注射実施における看護師の役割と責務及び実施範囲を理解できる 2) 末梢静脈内注射に必要な解剖生理の基礎知識を習得する 3) 末梢静脈内注射における薬剤に関する知識と管理を理解できる 4) 安全な末梢静脈内注射の方法がわかり実施できる</p>	レベルⅠ（新人）	36 32	2/02 2/04	3
がん治療と看護②	<p>【目的】 がん治療の特徴・副作用・合併症対策に関する基礎知識を習得し、実践に活用する【目標】 1. IVR 1) IVRの特徴とがん治療におけるIVRの意義を知る ・IVRを受ける患者のアセスメント・有害事象対策をしり、看護師の役割の重要性を理解できる 2. 内視鏡治療 1) 内視鏡治療の基礎知識を習得する ・内視鏡治療の特徴 ・がん治療における内視鏡治療の意義 2) 内視鏡治療における合併症と看護ケアについて理解できる 3. 臨床試験 1) 臨床試験の特徴と流れを知り、臨床試験における看護師の役割の重要性を理解できる 4. 緩和ケア（概論とがん性疼痛マネジメント） 1) がんと診断された時からの緩和ケアについて理解し看護師の役割を説明できる 2) がん患者の苦痛に気づき、トータルペインの視点で説明できる 3) がん性疼痛に必要な薬物療法と副作用対策について理解できる</p>	レベルⅠ	46 14	7/14 7/20	3
ケーススタディ	<p>【目的】 看護実践を振り返り、自己の課題を明確にする【目標】 1) 「がんの基礎知識」「がん治療と看護」で学んだ知識を活用し、患者の病態生理や治療についてまとめることができる 2) 看護過程を展開し、実践した看護について考察することができる 3) 互いのケーススタディを共有し学びを深めることができる 4) ケーススタディにおける学びから自己の課題を明確にできる</p>	レベルⅠ	27 28	11/24 11/25	2.5
フィジカルアセスメント②	<p>【目的】 がん患者の病態を正確に捉え、適切なアセスメントに基づいた安全・安楽な看護を実践する【目標】 1) フィジカルアセスメントの基礎知識をもとに、患者の病態を正確に捉えるために必要な情報収集ができる 2) フィジカルアセスメントの基礎知識と患者情報をもとに、助言を受けながら現状だけでなく今後起こりうる問題についてアセスメントする 3) アセスメントした内容をもとに、助言を受けながら必要な看護ケアを提供する</p>	レベルⅠ	28 27	12/15 12/15	3
メンバーシップとリーダーシップ	<p>【目的】 部署における自己の役割を見出し行動できる【目標】 1) メンバーシップとリーダーシップの概念を理解できる 2) 部署における自己の役割を述べられる 3) 部署内でリーダーシップを発揮できる 4) 今後リーダーとなる上での課題を見出すことができる 4) 自身が今後リーダーとなる上での課題を見出すことができる 5) 役割が遂行できるよう他者（リーダーまたはメンバー）へ協力を依頼できる</p>	レベルⅡ	76	5/26	2

継続看護（退院支援①）	【目的】退院支援の意義を理解し、実践できる【目標】1) 退院支援が必要な患者を早期から特定する意義を想起できる2) 退院支援における看護師の役割を理解し、説明できる3) 退院支援における多職種や地域との連携の必要性を理解できる4) 退院支援に必要な社会資源を列挙できる5) 退院支援に必要な情報を収集することができる6) 医療管理上の課題と生活・介護上の課題をアセスメントすることができる	レベルⅡ	35 20	6/16 6/22	3
継続看護（意思決定支援）	【目的】がん患者・家族の意思決定支援における看護師の役割について理解し、自立した実践につなげることができる【目標】1) がん患者・家族の意思決定支援における看護師の役割について説明できる2) 意思決定支援における倫理的問題を列挙できる3) 意思決定場面における個性を尊重した看護介入について、事例を用いて検討できる4) がん患者・家族の思いや考え、希望を意図的に確認することができる	レベルⅡ	32 10	6/30 7/06	2
事例検討①（サポータティブケア）	【目的】患者・家族のニーズを捉え、適切な看護を実践できる【目標】1) 症状マネジメント・がんサバイバーシップでの学びを活かし、患者・家族の置かれている状況から標準的なニーズを捉え、整理することができる2) 症状マネジメント・がんサバイバーシップでの学びを活かし、患者・家族に必要な基本的看護ケアを考察することができる3) 上記1) 2) を踏まえて実践した事例をまとめ、他受講生と情報共有することで、がん看護実践における自己の課題を見出すことができる	レベルⅡ	22	7/21	2.5
サポータティブケア（症状マネジメント）	【目的】がん患者の症状マネジメントを行う方法を習得し、実践に活用することができる【目標】1) がん患者に生じることの多い症状について、影響要因・症状出現のメカニズムを関連付けることができる2) 主な苦痛症状や基本的な治療やケアについて理解できる3) がん患者の身体的苦痛緩和におけるチームアプローチの必要性を理解できる	レベルⅡ	38 38	10/13 10/19	3
サポータティブケア（がんサバイバーシップ）	【目的】がん患者・家族が、がん治療中や治療後の生活を送るために必要な支援について理解できる【目標】1) がんサバイバーシップの概念について説明できる2) がん患者・家族の社会生活（経済的問題、就労就学、ライフステージに関わる問題など）に関する一般的な問題を想起できる3) がん患者の心理社会的苦痛について説明できる4) がん患者の心理社会的苦痛におけるチームアプローチの必要性を理解できる	レベルⅡ	38 31	10/27 11/02	2.5
臨床試験看護	【目的】看護師が臨床試験に携わるチームの一員であることを認識し、患者が安心して安全に臨床試験を受けるための看護師の役割を見出す【目標】1) 臨床試験における当院の使命と実施状況を理解できる2) 臨床試験の実施に必要な知識を理解できる3) 臨床試験における看護師の役割を述べるができる	レベルⅡ	31 19	11/17 11/23	1.5
看護研究	【目的】文献検索の方法や文献の入手手段を習得し、看護実践に活用することができる【目標】1) 自分の関心のあるテーマについて文献検索し、文献を入手することができる2) 看護研究論文の読み方が理解できる3) 看護研究論文を活用して、看護実践の根拠を述べるができる	レベルⅡ	37	1/19	2.5
コミュニケーションスキル	【目的】患者の感情表出を促進させるためのコミュニケーションスキルであるNURSEを習得し、患者・家族の個別性に合わせた看護が実践できる【目標】1) コミュニケーションスキルの手段であるNURSEを理解し、ロールプレイを実施できる2) ロールプレイを通し、患者・家族の顕在的・潜在的ニーズを捉えることができる3) 捉えたニーズを看護実践に反映できる4) コミュニケーションスキルを向上させるための自己の課題を明確にする	レベルⅢ	21	5/24	8
急変時対応とフィジカルアセスメント	【目的】急変患者の対応を通して教育的指導のスキルを身に付ける【目標】1) 急変時に必要な看護技術を習得できる2) 急変患者の対応ができる3) 多重課題・時間切迫下での自己の特性と傾向を把握できる4) 急変時対応の指導ができる	レベルⅣ	20	8/03	3

ベストプラクティス	【目的】問題解決の取り組みを通して、リーダーシップを発揮する【目標】1) 問題解決技法を学び、習得する2) 自部署の問題や課題に気づき、解決方法を見出すことができる3) 自部署の問題に対し、必要な支援を受けながら見出した解決方法を実践することができる4) 自部署の問題に対する実践の成果や課題を客観的データとして示すことができる5) 集団の特性を踏まえた動機づけを行い、リーダーシップを発揮する	レベルⅢ	19	6/19 7/8 7/28 9/30 2/26	18.5
ゲノム医療	【目的】ゲノム医療を理解し、患者・家族のニーズに応じた支援ができる【目標】1) 当院で行われているゲノム医療の概要を説明できる2) ゲノム医療における看護師の役割について説明できる3) がん患者・家族のゲノム医療に対する思いや考えを意図的に確認することができる4) がん患者・家族のゲノム医療に対するニーズを明確にして、支援に必要な職種への協力依頼ができる	レベルⅢ	26 44 44	9/08 9/14 9/14	3
がん医療と看護倫理	【目的】がん医療における倫理的課題を理解し、解決に向けてチームで取り組むことができる【目標】1) 看護実践における倫理の基本的な知識・態度・考え方を理解できる2) がん医療における倫理的課題を述べる3) 倫理的課題を解決に導くための方法を知る4) 倫理的課題についてチームで取り組むことができる5) がん治療、療養過程において、患者・家族の権利を理解した意思決定支援ができる	レベルⅢ	21	11/10	3
教育担当者研修①	【目的】成人学習者の特徴を理解し、効果的な教育方法を考える【目標】1) 看護職者の特徴を成人学習者の特徴と関連付けて説明できる2) 専門職業人としての後輩育成の必要性を述べる3) 教育的かかわりに対する自己の課題傾向を明らかにする4) 成人学習者の特徴をふまえて自部署の指導計画を立てる5) 後輩育成における自己の課題について述べる	レベルⅢ	18	1/26	3
教育担当者研修②	【目的】次年度教育担当者を担う看護師が、役割を理解し、必要な知識・技術・態度を習得する【目標】1) 「新人看護師研修ガイドライン【改訂版】」に示された教育担当者の役割を理解する2) 当院における教育担当者の役割を理解する3) 各看護単位における教育体制を主体的に構築できる4) 教育対象者（主に新人看護師）の特徴を理解する5) 新人看護師の基礎看護技術研修の概要を理解し、各看護単位の指導計画を立案する	レベルⅢ	23	2/16	2
共有リフレクション	【目的】後輩育成の意味を見出し、自己の役割に対する意欲を高める【目標】1) 後輩育成の必要性を理解する2) 後輩育成に必要なコミュニケーションを理解する3) 日々の後輩指導を振り返り、自己の成長を見出すことができる4) 後輩指導における自己の役割を明確にし、今後の関わり方について述べる	レベルⅡ	32	6/09	2
レポートの書き方	【目的】ジェネラリストラダーレベル申請に必要な課題レポートの書き方を習得する【目標】1) 基本的な文章の書き方がわかる2) 症例報告の構成を理解できる3) 提出前の構成ができる	レベル共通（全看護師）	57	9/04	0.5
がんのリハビリテーション	【目的】がんのリハビリテーションを理解し、実践に活かすことができる【目標】1) がんのリハビリテーションの概念を理解できる2) リハビリテーションが必要ながん患者の特徴を理解できる3) 周期、薬物療法、放射線療法、緩和治療におけるがんのリハビリテーションの実際を理解できる4) がん患者の摂食・嚥下障害のリハビリテーションを理解できる5) リンパ浮腫がある患者のリハビリテーションを理解できる6) 社会復帰が必要な患者の特徴や支援方法が理解できる7) リハビリテーションを進めていく上で必要な栄養管理の方法が理解できる8) 基本的なリハビリテーションを実践できる9) がんのリハビリテーションを推進するための看護師の役割を理解できる10) 所属部署におけるリハビリテーションの問題点と解決方法を見出すことができる11) 所属部署において、スタッフへ指導ができる	レベル共通（レベルⅢ以上）	10	7/09 7/16 7/22 9/7	12.5

緩和ケア	<p>【目的】緩和ケアの専門的な知識と効果的な指導方法について理解を深め、緩和ケアを必要とするがん患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する能力を高める【目標】1) 緩和ケアに関する基礎知識および考え方について理解できる2) がん性疼痛マネジメントに必要な基礎知識を習得する3) がん性疼痛マネジメントに必要な薬物療法と副作用対策について理解できる4) 疼痛以外の身体的苦痛とそのマネジメントについて理解できる5) トータルペインの考え方を理解し、事例をアセスメントすることができる6) がん患者の心理反応や主な精神症状とケアの方法を理解できる7) がん患者の家族ケアについて概説できる</p>	レベル共通（レベルⅢ以上）	13	9/10 9/11	15
がん薬物療法看護	<p>【目的】がん薬物療法における最新の知識・技術とその実際について理解を深め、がん化学療法を受けるがん患者とその家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援する【目標】1) がん薬物療法看護の特徴と看護師の役割について理解できる2) がん薬物療法の目的、治療計画、レジメンを理解することの意義を述べることができる3) がん薬物療法を安全に取り扱う必要性と曝露予防方法について理解できる4) がん薬物療法を受ける患者のアセスメント項目について理解できる5) がん薬物療法薬を確実・安全に投与するための留意点について理解できる6) がん薬物療法に用いられる薬剤の特徴と注意事項を理解できる7) がん薬物療法に用いられるレジメンのアセスメント項目について理解できる8) がん薬物療法における意思決定支援とチーム医療の重要性について考えることができる9) レジメンを取り上げて、投与管理上の留意点、注意すべき有害反応とその予防策・対応策、セルフケア支援を計画することができる</p>	レベル共通（レベルⅢ以上）	11	10/15 10/16	15
がん放射線療法看護	<p>【目的】がん放射線療法における最新の知識・技術とその実際について理解を深め、所属看護単位のがん放射線療法を受けるがん患者とその家族に対して、QOL向上を目指した療養生活支援を行う【目標】1) 放射線療法の基礎知識を理解できる2) がん治療における放射線療法の意義と方法について理解できる3) がん放射線療法の伴う急性期および晩期の有害事象とその対策について理解できる4) がん放射線療法を受ける患者の看護ケアおよびセルフケア支援を理解できる5) 事例を通して、放射線治療計画の理解を深め、有害事象対策とセルフケア支援を計画できる6) がん治療におけるIVRの特徴とIVRを受ける患者の看護について理解できる</p>	レベル共通（レベルⅢ以上）	14	11/4 11/5	15
皮膚・排泄ケア（②排泄ケア編）	<p>【目的】排泄ケア（ストーマを含む）を必要とする患者と家族のQOL向上を目指した主体的な療養生活を支援するために、必要な科学的根拠や最新の知識・技術について理解を深める【目標】1) 排泄ケアに必要な皮膚の解剖生理について理解できる2) ストーマリハビリテーションの基礎知識について理解できる3) ストーマが造設される疾患とストーマの種類について理解できる4) ストーマ造設の術前に必要なケアへの知識と技術を習得できる5) ストーマスキンケアとは何かを理解できる（皮膚保護剤の作用、皮膚保護剤と装具）6) 基本的ストーマケアを行うことができる7) ストーマ造設術後に必要なケアについて述べる（退院指導、社会福祉制度、晚期合併症）8) 正常な排泄（排尿・排便）について理解できる9) 尿失禁・便失禁の分類について述べる（がん治療に伴うものを含む）10) 失禁による皮膚障害とスキンケア方法（予防的・治療的）を述べる11) 失禁ケア用品を正しく選択し、使用することができる12) 事例を用いて、ストーマケアを受ける患者・家族のセルフケア支援について展開できる</p>	レベル共通（レベルⅢ以上）	10	7/15 9/4 9/29	4.5
看護管理研修①	<p>【目的】自部署の目標をもとに課題を見出し、目標達成のための実践活動を行う【目標】1) PDP(Problem-Discovery-Process)PDCAを用いて問題解決を行う2) 問題解決を繰り返す過程で、組織学習を体得する3) 自部署の目指す方向性について考え、目標を具体的に示すことができる</p>	レベル共通（レベルⅢ以上）	8	7/01	4

看護師による抗悪性腫瘍薬の末梢静脈注射研修	【目的】「看護師等による静脈注射実施基準」に則り、病院長より認定を受け、かつ、医師の指示のもとに投与する抗悪性腫瘍薬の作用・副作用を十分理解し、卓越した注射技術を習得し実践する。【目標】1. 静脈注射の実施に伴う看護師の責任・倫理的配慮について理解する2. 抗悪性腫瘍薬の副作用、有害事象への対処方法、血管外漏出の対応、緊急時の対応についての知識・技術を習得する3. 静脈注射に伴うリスクマネジメント・感染防止対策について理解し、実践できる4. 正しい知識のもとに安全に末梢静脈カテーテル・皮下埋め込み型ポート針留置を実施できる	レベル共通（レベルⅢ以上）	13	11/10	3
実地指導者研修	【目的】次年度実地指導者となる看護師が、役割を理解し、必要な知識・技術・態度を習得する【目標】1) 実地指導者に求められる役割、能力を理解する2) 実地指導で求められる知識・行動・態度について考えることができる3) 実地指導を通しての自己の成長に意欲を示す	レベルⅡ	40	2/09	2
事例検討②（継続看護）	【目的】患者・家族のニーズを捉え、適切な看護を実践できる【目標】1) 退院支援・意思決定支援での学びを活かし、患者・家族の置かれている状況から標準的なニーズを捉え、整理することができる2) 退院支援・意思決定支援での学びを活かし、患者・家族に必要な基本的な看護ケアを考察することができる3) 上記1) 2) を踏まえながら実践した事例をまとめ、他受講者と共有することで、がん看護ケアの実践における自己の課題を見出すことができる	レベルⅡ	37	12/08	3
医療安全教育	【目的】基準・手順に基づく安全な看護を提供できる【目標】1) 医療安全を学ぶ目的を理解できる2) 看護を安全に実施するための基準・手順を理解し、適切に実施できる3) 安全な看護実践のために必要な報告・連絡・相談を適切に実施できる4) インシデント報告の目的を理解し、適切に報告できる5) 安全管理に関する自部署における自己の役割を説明できる	レベルⅡ	39	10/20	2
退院支援②	【目的】がん患者と家族のQOL維持向上を目指した退院支援が実践できる【目標】1) がん患者の退院支援の特徴とプロセスを理解できる2) がん患者の退院支援における課題を整理し、アセスメントすることができる3) 活用できる社会資源を理解し、基本的な退院調整ができる4) 退院支援・退院調整の場面で発生する診療報酬を理解できる5) 患者・家族の意向に沿うために、チームアプローチの重要性を理解できる	レベルⅢ	22	10/14	3
看護管理研修②	【目的】組織学習を進めながら、自部署の看護管理者とともに看護管理を実践する【目標】1) 看護管理に関する知識・技術を習得する2) マネジメントコンパスを活用し、看護管理を実践する3) 自部署の目標達成のために役割を果たす4) スタッフのレジリエンスを高め、自部署の成長につなげる	レベル共通（レベルⅢ以上）	2	11/19	3
ストレスマネジメント	【目的】1. 心身の健康を保ち、看護師としての一年間を過ごすことができる2. 社会人として、専門職業人として受けるストレスに対応できる力を高める【目標】1. 現在感じているストレスや、予測されるストレスを知り、軽減できる2. 社会生活をしていく上で必要なストレスマネジメント力を高める3. 院内のメンタルヘルス支援の内容を知り、活用方法がわかる	レベルⅠ（新人）	28 32	9/04 9/09	2
退院支援③	【目的】当院における退院支援の意義を理解し、所属部署における退院支援において指導的役割を果たす【目標】1. 退院支援に関する国の政策を理解し、当院における退院支援の在り方を考えることができる2. 多職種や地域を連携して、複雑な問題を持つ患者の退院調整を実践できる3. 所属部署における退院支援の現状と課題を把握し、解決方法を検討することができる4. 退院支援において指導的役割を果たし、所属部署の複雑な退院支援を進めることができる	レベルⅣ	7	9/15	3
【院外向け公開研修】					
多地点がん看護カンファレンス	がん看護に関する合同カンファレンスを通して、全国レベルでがん医療・看護に従事する看護師間の情報共有および相互交流をはかる	全看護師	参加施設 (22)	①6/15 ②10/6 ③2/19	1
がん看護公開講座（WEB）	1. がん看護の質の向上と発展を目的とした新たな知識・技術および知見について情報発信する 2. 社会ニーズを見据えたこれからのがん看護における看護職の役割を明確にする	全国の各都道府県がん診療連携拠点病院、および、関東甲信越地区の地域がん診療連携拠点病院と国立病院機構病院系188施設の看護師	355 院内25	11/11	5

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 島田 和明
管理担当者氏名	医療安全管理部長：楠本 昌彦 看護部長：關本 翌子 薬剤部長：古川 哲也 統括事務部長：岡野 睦 医事管理課長：塚前 護

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務部
		各科診療日誌	総務部
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事管理課
		看護記録	看護部
		検査所見記録	医事管理課
		エックス線写真	放射線部門
		紹介状	医事管理課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	看護部
		従業員数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事管理室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究企画課
		高度の医療の研修の実績	教育連携係
		閲覧実績	総務課、医事管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事管理室
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

診療に関する患者記録は全て（入院、外来問わず）一患者一ファイル方式で管理。
 (1) 診療録等は永久保存
 (2) 内視鏡フィルム、10年保存
 (3) フィルム（内視鏡フィルム除く）、5年保存
 (4) 病理、細胞診プレパラート、20年保存

診療録の院外への持ち出しについては、原則禁止。例外的に持ち出す際は、リスクレベル評価に応じたセキュリティ対策を講じる。

保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは台帳等により管理。

保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室および放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室 診療の質管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理室		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理室		

保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長、医事管理課長	
閲覧担当者氏名	文書管理係長、入院外来係長	
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課、医事管理部医事管理課	
閲覧の手続の概要 『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年12月5日法律第140号)』及び『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成14年6月5日政令第199号)』に基づき以下の当センター規定に則り閲覧を含む開示手続きを行う。 ・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開手続規程(平成22年4月1日規程第49号) ・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開手数料規程(平成22年4月1日規程第48号) ・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開審査基準(平成22年4月1日規程第50号) 具体的には、総務部総務課を情報公開窓口として、以下の手続きを行う。 ①開示請求者より、法人文書開示請求書(規定様式)の提出と手数料の支払いが行われる。 ②①に不備がある場合は、補正依頼公文(規定様式)を送付する。 ③請求文書の特定と開示可否の審議を行い、審議結果に応じて、法人文書開示決定通知書又は法人文書不開示決定通知書を開示請求者に送付する。 ④請求の内容により、期限の延長又は事案の移送が必要な場合は、それぞれ規定に基づき通知公文を開示請求者に送付する。 ⑤③を受け、開示請求者が開示実施を希望する場合は、規定の実施方法等申出書を提出する。 ⑥⑤の実施方法等申出書及び開示実施に係る規定手数料を受け、文書の開示を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 平成30年10月1日改訂</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療に係る安全管理のための基本的な考え方 2) 医療に係る安全管理のための組織及び委員会等に関する基本的事項 3) 医療に係る安全管理のための職員研修 4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 13 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理室へ報告される全てのインシデント・アクシデント事例、有害事象例について、月1回医療安全管理部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。その後、病院長が委員長である医療事故等防止対策委員会（月1回）に報告・承認後、決定事項を医療安全担当副院長から、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議（月1回）にてリスクマネージャー・サブリスクマネージャーに伝達し、所属職員に周知徹底を図っている。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： ＜全職員研修：医療安全講演会＞</p> <p>第1回「診断に関するエラー」（R2. 6. 9～）Web開催（eラーニング）</p> <p>第2回「あなたならどうする？～事例から学ぶ医療安全～」（R2. 10. 14～） Web開催（eラーニング）</p> <p>* 年2回受講率 100%（DVD上映・閲覧含む）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） 医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療事故等防止安全管理規程を定め、医療事故等防止対策委員会、医療安全管理部会を設置。また、各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを配置している。インシデント・アクシデントが発生した場合は、電子カルテにログインして起動するインシデント報告分析支援システム（略称CLIP；有害事象報告を含む）を通じて、各部署より医療安全管理室に報告される体制。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議での説明・指示・伝達（月1回） インシデント防止目標の提示（隔月） 医療安全ニュースの発行（月1回） 職員全員参加の研修会の実施（年2回） 医療安全ポケットマニュアル（約200頁からなり、全職員携行を義務付け）の年1回の更新</p>	

事例集の発行（年1回）

- 過去3年間の報告件数（インシデント・アクシデント）：
 - 令和2年度 6400件
 - 令和元年度 5780件
 - 平成30年度 4995件
- 過去3年間の報告件数（診療関連重篤有害事象）：
 - 令和2年度 540件
 - 令和元年度 473件
 - 平成30年度 481件

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 感染対策の基本的考え方、院内感染対策体制の整備(院内感染対策委員会、感染制御室、感染対策チーム、感染制御室長、副感染制御室長、院内感染管理者、感染制御室専任医師の設置)、職員に対する研修に関する基本方針、感染症の発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、患者等への情報提供と説明に関する基本方針、その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針、抗菌薬適正使用推進のために必要な基本方針について。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容： 院内感染発生動向の監視と効率的な院内感染対策が実施できるように、感染制御室および感染対策チームの活動支援を行う。感染制御室、感染対策チームで検討した課題や提案された事項について審議、決定を行う。 新型コロナウイルス感染症対策WG定例会議（1回/週）</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： <全職研修：院内感染対策講演会> 第1回 「新型コロナウイルス感染症について(R2. 4. 15) 当院感染制御室 小林 治 医師 第2回 「インバウンド感染症への対応-COVID-19を中心に」(R2. 11. 9) 防衛医科大学 川名 明彦 医師 延べ参加人数：1499名 受講率：第1回100%、第2回100%（インターネット視聴・DVD視聴を含む） <その他> 実技確認の機会として「感染対策実技トレーニング」（年10回および各部門での開催）など</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 院内感染上重要な病原体の検出時には、微生物検査室から担当医とともに感染制御室に電話連絡され、患者の状態を把握後、当該部署に必要な対応について指示している。 - 病院長には週に2回、感染制御室長もしくは院内感染管理者が院内の状況を日報として報告している。これらをまとめ毎月の感染対策委員会に報告している。 - アウトブレイクが疑われた場合は、速やかに調査・状況把握を開始し、必要に応じて臨時院内感染対策委員会を招集するとともに、全職員対象メールやリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議を通じて院内全体に対応を周知する体制としている。 - 重大なアウトブレイク発生時などには、保健所など外部機関に報告・相談し、速やかな終息および再発防止を図る体制となっている。 - 新たな感染症発生時には、臨時委員会の開催や講演会を実施している。 <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 流行性ウイルス性疾患について職員におけるワクチンポリシーを整備し、ワクチン接種状況もしくはウイルス抗体価を把握するとともに、ワクチン接種状況もしくはウイルス抗体価が基準を満たさない職員に対するワクチン接種を推進している。 - 新型コロナウイルスワクチンを職員へ接種している。 - 感染症診療に関するコンサルテーション体制を整備するとともに、血液培養陽性例は全て感染症医が治療内容を確認し、必要に応じて介入している。 - 抗菌薬の使用状況を把握し適正使用を推進している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2020/6/16 麻薬管理について</p> <p>2020/11/5 がん患者の血糖管理 知識編</p> <p>2020/11/27 がん患者の血糖管理 薬剤編</p> <p>2020/12/4 経腸栄養剤の安全使用</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 薬事委員会による医薬品の採用検討と採用薬整理 ● 医薬品の適正な購入及び各種規制を遵守した適正な管理 ● 病棟常備薬の適正な配置と保管・管理状況の把握および指導 ● 外来及び入院患者の処方薬の調剤及び指導 ● 外来及び入院患者への医薬品の使用 ● 医薬品情報の収集・管理・提供 ● 持参薬鑑別による情報収集と情報共有 ● 他医療機関との医薬品使用に関する情報の共有と連携医薬品の安全使用に関する教育・研修の実施 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>造血幹細胞移植後のアデノウイルス感染症に対して、本邦未承認であるCidofovirを使用 Cidofovirは、米国で「AIDS患者におけるサイトメガロウイルス (CMV) 網膜炎」の適応がありその他のCMV感染症、アデノウイルス感染症などに対しては米国でも適応外使用となる。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病棟薬剤師による各病棟への医薬品安全使用に関する情報周知の徹底 ● 安全性速報(ブルー・イエローレター)の院内周知の徹底 ● 薬剤部HP・コンテンツの改善 ● 投与時に注意が必要な薬剤に対する注意喚起を目的とした一覧の作成及び院内周知 ● 複数規格のある薬剤の規格の取り違え防止を目的とした表示名称の工夫 ● 同種同効薬の採用に際し、安全使用を目的として力価・包装等の院内資料を作成し配布 ● ハイリスク薬に対する注意喚起のため、定義と注意事項を周知 ● 後発医薬品への切り替えに当たり、安全使用を目的として医薬品名の表示に先発医薬品名を付記 ● 職業曝露防止や適正な無菌混合調製を目的とした、休日体制下での抗がん剤無菌調製業務の実施 ● 適応外使用、未承認薬使用の把握及び申請における管理 ● 抗がん剤レジメン審査の管理 ● 医薬品マスター(HIS、部門システム)の作成、削除、変更 ● 院外薬局との医薬品使用に関する情報共有と連携の実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<放射線部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 125 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 新規医療機器設置後、定期点検後ならびにバージョンアップ後に添付文書に基づく使用方法、注意点、変更点、管理方法等について研修を実施 	
② 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 職員による日常点検の実施と不備事象の適宜報告 機器メーカーによる保守・定期点検の計画・実施・報告の実施 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) PMDA登録による情報や国立病院機構からの情報周知等 ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：(無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 機器メーカーによる定期点検の実施、職員による日常点検の実施と不備事象の適宜報告 修理・事故原因報告に基づいた機器・ソフトの改修ならびにバージョンアップ 使用・運用マニュアルの定期的な改訂 定期的な勉強会の実施と自己研鑽の推奨 医療安全管理室と連携し、関連職員へのMRI磁場体験の実施 放射線治療に至るまでの全体的な行程を理解する放射線治療行程研修を開催 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<臨床検査部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年128回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <p>人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器等の特定保守管理機器を中心に研修計画を立て、使用方法、管理方法、注意事項、不具合対応について実施。新規導入医療機器についても導入時、バージョンアップ後等必要に応じて実施。</p> 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>除細動器、人工呼吸器、血液浄化装置、電気メス、シリンジ・輸液ポンプ、モニタ類等について、機器購入時に計画を立て、機器管理システムにて管理。臨床工学技士またはメーカーによって日常点検、定期点検を実施。</p> 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 無 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>PMDAやメーカー、医療安全管理室より情報を収集し、勉強会(説明会)の開催、使用マニュアル改訂、現場管理者へ通知、各会議等で周知して改善している。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<臨床工学部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 新規検査機器導入時の院内研修、検査機器の保守点検・消耗品交換・不具合発生時の対応等に関するメーカー研修などを実施。入職者に対する伝達講習。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ISO15189:2012規格に準じたメーカーによる定期点検計画の実施・作業報告書の保管。 医療機器の日常点検の実施および実施記録の保管。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 無 <p>PMDA、メーカー、国立病院機構からの情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常点検の実施 2) 定期点検の実施 3) 機器操作手順書の整備・改訂・周知 4) 日当直業務実施のための機器操作トレーニング 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者として、医療安全担当副院長を任命済み。 医療安全管理室の室長であり、医療事故等防止対策委員会には副委員長として出席している。 また、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者から、報告を受ける体制が構築されている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有（8名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報の収集・管理・提供は主として薬剤部医薬品情報管理室にて行っており、周知は定期的（月1回）な医薬品情報誌の発行、医薬品集の発行（年1回）、タイムリーな医薬品に関するお知らせ文書の発行等を、印刷物・メール・イントラネット掲載等を利用して行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内で使用する医薬品は薬剤部で一元管理する体制をとっており、医薬品の適応外使用については、薬事委員会（適応外使用小委員会）で審査・報告等を行い、病院長の許可を得て使用をしている。未承認医薬品の使用については、高難度新規医療技術等評価委員会（未承認薬使用小委員会）で審査・報告等を行なう体制としている。薬剤部では、未承認医薬品使用、適応外使用について情報を集約しており、所定の手続きを行っていない処方例を薬剤師が把握できる体制としている</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師 ） （所属：各診療科，職種 医師「各診療科長」） （所属：看護部 ， 職種 看護師長 ） （所属：臨床検査科，職種 臨床検査技師長 ） （所属：放射線技術部，職種 診療放射線技師「技術部長」 ）（所属：輸血管理室，職種 医師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p>	

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：全死亡症例における、最終治療に関する患者説明状況調査

全有害事象報告における、当該事象に関する事前の患者説明状況調査

上記調査結果から対応が必要と判断した診療科に対し、改善指導の実施及び説明文書の新規作成

・改訂依頼

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療情報管理係において、退院時要約を含む診療録等の確認・管理を行い、診療統計の一部の算出を行っている。</p> <p>診療情報管理委員会において、診療録や入院診療計画書の監査を実施している。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>所属職員：専従（ 8 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 10 ）名</p> <p>うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 4 ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 5 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>うち事務員：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 4 ）名</p> <p>・各部署のリスクマネージャー：90名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査 （定期的な現場の巡回・点検、理解度の確認、マニュアルの遵守状況の点検） 2) 医療事故防止対策マニュアルの作成及び点検、見直し 3) 部門別に作成されているマニュアルの確認及び見直しの提言 4) インシデント・アクシデント・有害事象報告（インシデント・アクシデント・有害事象事例を体験した医療従事者が、その概要を記載した文書をいう。以下同じ）の収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価（改善策の周知確認） 5) 医療安全管理に関する最新情報の把握と職員への周知（他施設における事故事例の把握等） 6) 医療安全に関する職員への啓発、広報（月間行事の実施など） 7) 医療安全に関する教育研修の企画・運営、教育研修の理解度確認 8) 医療安全管理に係る連絡調整 <p>※モニタリング実施状況：</p> <p>医療安全管理指標として25項目（「インシデント・アクシデント報告件数」「有害事象報告件</p>	

数」「インシデント・アクシデントレベル別割合」「患者誤認事例件数」「放射線診断レポート未開封割合」「病理診断未開封レポート割合」「抗がん薬血管外漏出割合」等)についてモニタリングしている。

医療安全ニュースやリスクマネージャー会議の周知内容、医療安全講演会の内容、医療事故防止対策マニュアルの所在確認、自部署でおきたインシデントの情報共有方法、医療事故調査制度で報告すべき事案、医療安全ポケットマニュアルの携帯状況、インシデント報告システムの確認、内部通報窓口の場所と報告方法、患者のアレルギーの入力の方法等について、部署ラウンドで職員へ確認している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

新規医療技術等導入に関する審査及び事後報告評価を行う。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 2 件）、及び許可件数（ 2 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する委員会の事務局業務及び委員会の検討結果の通知に対して承認・非承認を決定し病院長に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 334 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：
 - インシデント・アクシデント報告：令和 2 年度 6400 件
 - 有害事象報告：令和 2 年度 540 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡症例については、医事管理課から医療安全管理室へ、1 週間毎に全死亡患者リストを報告する仕組みがある。入院患者が死亡した場合は、医師が死亡日時、治療及び死亡前の状況、治療中及び最終治療日から 30 日以内に発生した死亡の有無を遅滞なく報告し、医療安全管理室で内容に問題がないか毎日カルテレビューしている。医事管理課からの死亡患者リストは、医療安全管理室で最終治療に関する説明・同意書の有無や診療内容の確認をし、病院長と複数の副院長によるカルテレビュー結果を医療安全管理室で確認し、再調査となった場合、診療科への確認と医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

重大事例については、医療安全管理室での説明・同意書の有無や診療内容を確認し、必要時は診療科と症例検討会を実施した上で、医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

死亡症例、重大事例とも、医療事故等防止対策委員会にて承認された対策は、病院長による関係診療科への指導や、医療安全担当副院長からリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて伝達し、職員に周知徹底を図る体制となっている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (メール開催 (病院名：昭和大学病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (メール開催 (病院名：昭和大学病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

技術的助言：院内の医療安全定期調査において、未承認薬と適応外使用薬の申請方法についての医師の正答率は 100% とすべきである。

実施状況：令和 2 年度の医師の正答率は 92% であった。令和 3 年度は 9 月 10 日時点で 80% へ低下している。調査時に直接医師へ申請方法について指導するとともに、内科系医師の全体会等での周知を継続する。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

安全管理に係る相談窓口として、相談支援センターを設置している。
患者へは院内ポスター提示、リーフレット設置等により周知している。その後、相談支援センターから患者医療対話推進室へ対応依頼される仕組みがある。患者医療対話推進室では、相談支援センターや病棟等から相談等を受けた後、関係部署から事実関係等を聴取の上、対応を実施している。医療安全管理上の問題は、医療安全管理室へ情報共有され連携して改善策を立て対応している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

外部監査委員会や医療安全相互ラウンドで指摘された事項（医療安全管理部の目標設定やICに関する患者・家族の反応記載）や特定機能病院承認要件（内部通報窓口や外部監査委員会の設置、医療安全管理室ラウンドの実施）について、令和2年度第2回医療安全講演会で全職員へ周知した

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「令和2年度特定機能病院管理者研修1日間」令和2年11月受講

医療安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「令和2年度特定機能病院管理者研修1日間」令和2年10月受講

医薬品安全管理責任者：一般社団法人日本病院薬剤師会主催
「令和2年度特定機能病院管理者研修1日間」令和2年11月受講

医療機器安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「令和2年度特定機能病院管理者研修1日間」令和2年11月受講

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・ 第三者による評価の受審状況

病院機能評価（一般病院3）3rdG:Ver. 2.0

受審日：2019年2月5日～2月7日

認定日：2019年8月9日（認定期限2023年11月16日）

- ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

上記について、改善要望事項に該当する項目の指摘はなかった。

公表については、病院機能評価の審査結果報告書を病院ホームページに掲載している。

- ・ 評価を踏まえ講じた措置

全88評価（S評価:4、A評価:69、B評価:15、C評価:0）において、B評価とA評価でも課題だと思われる項目については、2020年11月の認定期間中における中間審査（改善状況報告）までに改善措置を実施した。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験を有し、医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること <ul style="list-style-type: none"> ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 ウ 医療安全管理部門における業務 エ その他上記に準じる業務 (2) 当該病院内外において組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること (3) 中央病院及び東病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢と指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法：病院ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
<p>管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由</p> <p>委員の委嘱については委員会の開催ごとに依頼をしており、前年度においては委員会の開催がなかったため、委員名簿及び選定理由についてはありません。</p>				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営の方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営会議の議事概要を作成し、病院全体に周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） 規程上、議長が必要と認める者（外部有職者を含む）を病院運営会議に参加させることができるとしている。 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
島田 和明	○	医師	病院長
中山 智紀		事務	理事長特任補佐
藤元 博行		医師	副院長
山本 昇		医師	副院長
大江 裕一郎		医師	副院長
楠本 昌彦		医師	副院長
吉本 世一		医師	副院長
關本 翌子		看護師	看護部長
古川 哲也		薬剤師	薬剤部長
奥坂 拓志		医師	内科系部門長
金光 幸秀		医師	外科系部門長
小林 望		医師	検診センター長
鈴木 達也		医師	企画戦略局次長
麻生 智彦		診療放射線技師	診療放射線技術部長
前澤 直樹		臨床検査技師	臨床検査技師長
岡野 睦		事務	統括事務部長
梶野 浩司		事務	財務経理部長
船越 裕		事務	人事部長
吉浪 誠治		事務	企画経営課長
大島 朗		事務	財務管理課長
塚前 護		事務	医事管理課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
理事会規程：病院の運営に関する事項が審議される際には、病院長は理事会に出席し、意見を述べるができる。
組織規程：院長は、病院の事務を掌理する。また、特定機能病院としての機能を確保するために必要な事項に関して、理事長に意見を述べるができる旨規定。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
組織規程：副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する。
企画経営部を設置し、センターの業務の企画及び調整に関する事、センターの経営に関する事の事務をつかさどる旨規定。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立病院機構が主催する以下研修に参加
 - ・ 中間管理職新任研修
 - ・ 薬学生実務実習対策研修
 - ・ 障害者雇用にかかる就労支援研修
 - ・ 診療放射線技師実習技能研修
 - ・ 認定看護管理者教育課程

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>監査委員会は、医療の安全の確保を図るため、理事長が設置するものとし、次に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、その他監査委員会として必要と認めるものの業務の状況について病院長、その他監査委員会として必要と認めるものから報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>(2) 必要に応じ、理事長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見表明を行う。</p> <p>(3) (1) 及び (2) に掲げる業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山本 修一	千葉大学大学院医学研究院 眼科学教授 千葉大学医学部附属病院眼科科長 千葉大学医学部附属病院前 病院長	○	特定機能病院の医療安全体制に精通	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
川崎志保理	順天堂大学医学部附属順天堂医院医療安全推進部 部長補佐		特定機能病院の医療安全体制に精通	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
田島 優子	さわやか法律事務所 弁護士		法律関係に精通	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
眞島 善幸	NPO法人		患者団体の役員	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

	パンキャンジ ヤパン代表		として医療問題 に精通		
荒井 保明	国立がん研究 センター 理事長特任補 佐		当院の前病院長 として院内診療 ・医療安全管理 体制を熟知	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	1

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

理事会、執行役員会及び内部統制推進委員会・リスク管理委員会の整備、開催。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会、執行役員会及び内部統制推進委員会・リスク管理委員会の整備、開催。病院長はこれらの理事会等に出席。 ・ 会議体の実施状況（ 年12回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年12回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 周知の方法 : 新採用オリエンテーション、医療安全ポケットマニュアル

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <ul style="list-style-type: none">● ホームページを通し、各診療科で提供している医療や先進医療の提供状況、治験実施状況、研究成果や新たな取り組みについて最新情報を随時公開した。● がんに関する最新知見や研究成果、科学的根拠に基づく診断・治療法について広く国民に情報提供を行うために、プレスリリースやSNSの活用、積極的な取材対応を行い情報発信した。● 患者さんへは、動画の配信や広報誌の発行、SNSの活用などで職員の顔が見える丁寧な情報提供を行った。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ol style="list-style-type: none">1. 主たる悪性腫瘍に対して開設されている内科・外科間の連携2. 特化した治療（放射線治療、放射線診断、内視鏡センター、通院治療センター等）と各診療科との連携3. 複数の悪性腫瘍や、患者の状態によって診療科間における協力が必要な場合の連携（転移がん、希少がん等）4. その他	

(様式第 8-3)

番 7195 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 田村 憲久 殿

開設者名 国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 中釜 齊

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|---|
| ① 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院 3 による評価 |
| 2 Joint Commission Internationalが実施する、J C I 認証による評価 |
| 3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

受審予定時期：2022年11月 ～2023年10月 (現在の認定期間：2018年11月17日～2023年11月16日)
--